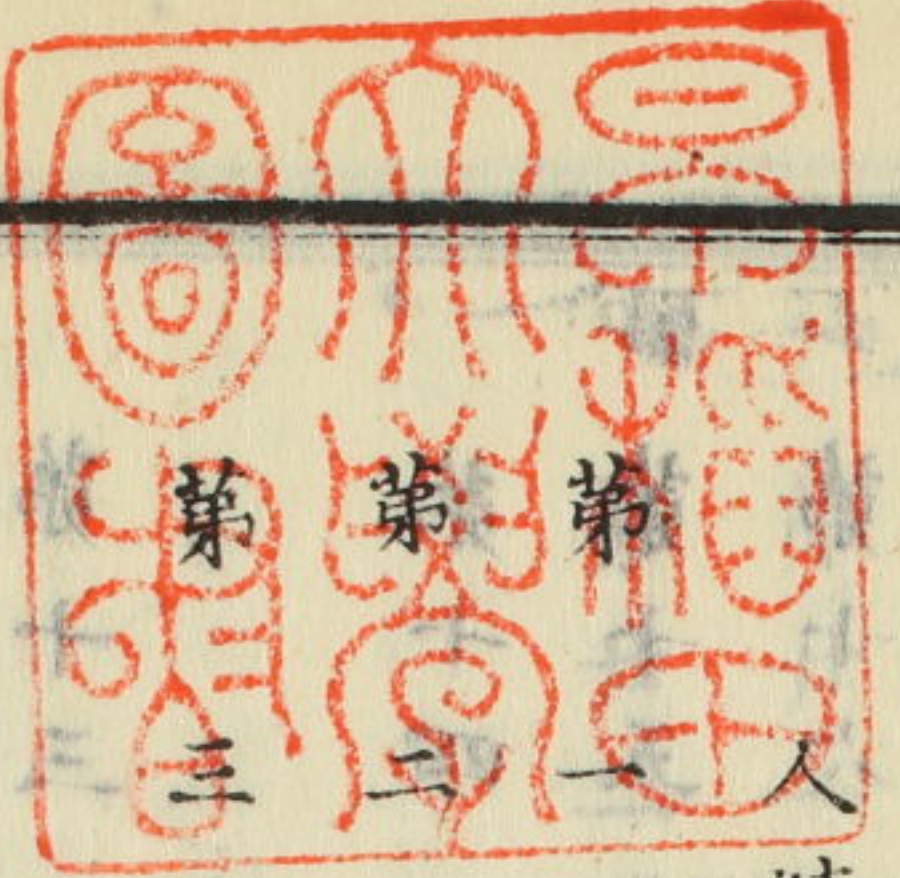


日本立志編

名脩身軌範
上河岸貫一著述

五





日本立志編卷五目次

續密ノ部

人續密ノ氣象ナクシバアル可ヲザル事ヲ叙ス

第一 藤原秀郷將門ヲ鄙ミタル事 三丁

第二 釋宗純師ノ病ニ侍シテ穢ヲ雪ギタル事 三丁

第三 北條氏康嫡子氏政ノ食スルヲ見テ落涙セル事 四丁

第十四 織田右府人ヲ細微ノ末ニ察シタル事 七丁

第十五 森蘭丸光秀ノ異圖アルヲ察セシ事 九丁

第十六 北條氏直密柑ヲ徳川氏ニ贈リタル事 十一丁

第十七 石田三成茶ヲ豐公ニ進メタル事 十三丁

第十八 可見才藏兵學士ヲ擯斥シタル事 十五丁

明治二十六年九月二二日

大隈信常氏寄贈

第九 千利休死ヲ賜フニ及ビ遽色ナカリシ事

十六丁

第十 雲居和尚少年ノ惡戯ヲ為スヲ知リタル事

十九丁

第十一 江村專齋平生些字ヲ持シタル事

二十丁

第十二 徳川秀忠公ノ縝密謹厚ナリシ事

二十三丁

第十三 紀州侯頼宣其生母ニ牽牛花ヲ贈リタル事

二十四丁

第十四 板倉勝重其室ヲ戒メタル事

二十五丁

第十五 板倉重宗茶碓ヲ設ケテ訟ヲ聽キタル事

二十六丁

第十六 太田忠兵衛劍法ノ虚實ヲ論ジタル事

二十七丁

第十七 徳川吉宗公ノ勤儉縝密ナリシ事

三十四丁

第十八 并河簡亮其門人ト語リタル事

四十一丁

第十九 木勝吉直諒ニシテ密行多カリシ事

四十二丁

第二十 二老人其家ヲ富マシタル事

四十四丁

第二十一 瀧鶴臺ノ妻絲團ヲ袖ニ藏セル事

四十六丁

第二十二 頼彌太郎文士疎懶ノ習氣ナカリシ事

四十七丁

日本立志編卷五

續密ノ部

千河岸貫一撰述

人續密ノ氣象ナクシバアルベカラザル事ヲ叙ス
人續密ノ氣象ナカルベカラズ何トナレバ豪邁ナリト雖
氏苟モ續密ナラザルトキハ事ヲ敗ルコト多シ夫ノ陳蕃
ガ天下ヲ掃除セントスル志氣ハ豪邁ト謂フベキナリ而
シテ其一室ヲ事トセザルモノハ續密ヲ少クモノナリ左
レバ竇武ト共ニ閹官ヲ除カンコトヲ謀リテ其事ノ敗ブ
ルハニ至リケルハ是レ漢室ノ天祐薄キニ由ルト雖ドモ
抑モ亦其圖謀スル所續密ナラザルヲ以テナルベシ之ニ
反シテ謝玄ガ弱晋ハ千ノ兵ヲ以テ苻堅ガ百萬ノ銳ヲ折

ク、豪邁ト謂ッベシ。而シテ郝趙ガ所謂履屐之間不失其任
トイフモノ。其縝密ナルコト思フベシ。左レバ兵法ニ所謂
守如處女出如脱兔トイフモノ。亦豪邁ノ志氣アリ。縝密ノ
氣象アルヲ謂フナリ。古ノ出將入相ト稱セラル、名賢孰
レモ此ニヲ兼有シタリト見ユ。又夫、泰西文明諸國先賢
古哲ノ傳記ヲ視ヨ。或ハ神燈ノ風ニ動揺スルヲ見テ。時辰
儀ニ用ウル振子ヲ發明シ。或ハ瓶湯ノ沸發スルニ由テ。蒸
氣力ヲ發明スル等。縝密ノ注意。遂ニ其功ヲ後世ニ貽フス。
然レバ則チ泰西文明國ノ學術技藝ハ。之ヲ前代ノ賢哲ガ
縝密ニ由テ得タルモノナリト謂フベシ。我邦格物致知ノ
學。之ヲ泰西ニ取ル。而シテ脩身齊家ノ要旨ニ至テハ。我邦
賢哲ノ言行ノ以テ摸範トナスベキモノ多シ。讀者此編ニ

列記スル所ト夫、漢唐若クハ泰西ノ賢哲ノ言行ヲ見集
メテ大成シテ。其身ヲ脩メ心ヲ正フスルノ工夫ニ於テ。造
次顛沛ニ懈ル所ナキニ至ラバ。其裨益豈鮮歟ナランヤ。

第一 藤原秀郷將門ヲ鄙ミタル事

藤原秀郷ハ。下野ノ押領使タリ。平將門相馬ノ里ニ據リ。常
陸下総ヲ劫掠ス。天慶中。遂ニ下野上総武藏相摸ヲ攻メ。悉
ク之ヲ下ダス。初メ將門藤原純友ト。比叡山ニ登リ。俯シテ
皇城ヲ瞰テ曰ク。大丈夫當此ニ宅ルベキヤト。遂ニ與
モニ及ヲ謀ル。純友マタ海島ニ據リ兵ヲ舉ゲ。以テ遙カニ
將門ニ應ズ。將門自ラ新皇ト稱シ。偽宮ヲ猿島郡石井ニ建
テ。文武百官ヲ置ク。缺クル所ハ曆博士ノ之。朝廷參議藤原
忠文ヲ以テ征東大將軍ト為シ。將門ヲ討伐セシム。未ダ至

ラズ。平貞盛、秀郷ト兵ヲ合セ、將門ヲ討テ之ヲ斬ル。黨與悉
ク謀ニ伏ス。忠文途ヨリ還ル。是ヨリ先キ、秀郷將門、兵ヲ
起スヲ聞キ、營ニ造テ、謁ヲ通ズ。將門方ニ髮ヲ梳、髻ヲ握
テ出ヅ。秀郷其輕卒與ニ為スアルニ足ラザルヲ知リ、大ニ
望ミコ失フ。既ニシテ食ヲ命ジ、共ニ食ス。飯粒前ニ墮ツ。將
門手ヲ以テ、頓リ、ニ之ヲ揮フ。秀郷益之ヲ鄙ミ、遂ニ貞盛ニ
從ヒ、將門ヲ攻殺ス。

櫻所子曰。將門ガ人トナリ。慄悍ニシテ、騎射ヲ善クス。其以
テシテ攝政藤原忠平朝臣ニ事ヘ、檢非違使タルヲ求ムレ
ト省セズ。之ニ由テ憤恨不平。去テ東國ニ之キ叛ヲ謀カル。
其大事ヲ成スニ足ラザルヤ、檢非違使ニ熱中シタルヲ以
テモ知ルベシ。然レドモ其關東六州ヲ取ルヤ、威綏頗ル熾

ナリ。秀郷亦コレニ隨テ功名ヲ計ラントシタルヒ、如
シ。其心術固ヨリ大義名分ヲ知ルモノニ非ス。然リト雖モ
其髻ヲ梳リ飯ヲ揮フヲ見テ、與モニ為スアルニ足ラザル
ヲ察シ、貞盛ヲ助ケテ之ヲ攻ム。是ニ於テ秀郷亦貳臣傳中
ニ其名ヲ録セラル。コトヲ免ヌガル。秀郷ヲシテ將門ヲ
見ルノ時ニ於テ、此續密ノ注意ヲ關クモノナラシメバ、秀
郷ノ存亡果シテ如何ナランカ。秀郷亦人ヲ知ルノ明アル
モノト謂フベキナリ。

第二 釋宗純師ノ病ニ侍シテ穢ヲ雪ヤタル事

釋宗純ハ、後小松天皇ノ皇子トリ、母藤原氏宮ヲ出ルニ方
リ身マルコトアリ。應永元年、宗純ヲ民家ニ生ム。宗純天資
英敏、六歲ニシテ薙髮シ、周建ト名ク、後チ近江ノ祥瑞庵ニ

至リ。釋宗曇ニ從フ。宗純ト名ケ。一休ト號ス。後花園天皇。勅
シテ紫野ノ大徳寺ニ住セシム。文明十三年。年八十八ニシ
テ寂ス。宗純。心機快活。豪放不羈。物我相忘。貴賤一視。
志慈惠ニ存ス。隨テ得レバ隨テ施ス。兒童則愛シ。鳥雀就テ
啄ム。其師ノ病ニ侍スル。手ミヅカラ穢ヲ雪グ。嘗テ泉別堀
浦ニ居ル。街市ニ出ル。ゴトニ。一本劍ヲ携フ。之ヲ問フモノ
アレハ。則チ曰ク。世ノ偽知識ハ。猶ホ此木劍ノ如シ。之ヲ室
ニスレバ。則チ似タリ。之ヲ拔ケバ。則チ木片ノミ。人ヲ殺ス
コトスラ猶ホ能クセズ。何況ヤ人ヲ活センヤ。後小松天皇。
將ニ崩ゼントス。宮ニ入テ法ヲ説カシム。天皇大ニ悦ビ。親
カラ先朝ノ寶墨。聖州飛白。數帖ヲ賜フト云フ。
櫻所子曰。佛門中ニ於テ。最モ豪放ノ風。磊落ノ習アル。禪者

中。巨擘ト稱セラル。ヒノナリ。既ニ世ノ利名榮辱ニ心ヲ
煩ハサズ。何ゾ世間ノ塵埃ヲ被ムランヤ。其貴賤ヲ一視シ。
得ル所アレバ之ヲ施シ。心機快活ニシテ。一モ執着スル所
ナキ亦宜ナリ。而シテ如此豪放磊落ノ人ニシテ。其師ノ為
ニハ。親カラ穢ヲ雪グニ至ル。豈鄭重纈密ナリト謂ハサル
バケンヤ。今世ノ士人。權門勢家ニ出入シ。利名ノ為ニ羈縛
セラレ。榮辱ノ為ニ懊惱セラル。其胸襟ノ洒々落々タル。光
風霽月モ啻ナラサル。一休禪師ノ如キモノアリヤ。恐クハ
得易カラサルベシ。然レバ則チ其豪放磊落。固ヨリ一休禪
師ニ差カズ。又其師父ノ病ニ侍シテ能ク親カラ穢ヲ雪グ
ニ至ルカ。恐クハ其纈密鄭重ナルコトモ。亦一休禪師ニ如
カサル。猶ホ豪放磊落ノ氣象ノ企テ及ブベカラサルモノ

ノ如クナラン。

第三 北條氏康嫡子氏政ノ食スルヲ見テ落涙セル事

北條氏康ハ、左京大夫氏綱ノ子ナリ。人トナリ沈毅ニシテ、
寛猛兼濟ス。能ク禮節ヲ等フシ。威重自ラ持ス。功ヲ録シテ
昇賤ヲ略セズ。其人ヲ用ウル、能ク其器ニ適ス。賞罰嚴明ナ
リ。其下畏レテ之ヲ愛シ。人々自ラ奮ヒ。為メニ死ヲ効サン
コトヲ願フ。其兵ヲ用ウルニ敏捷ナル。強敵ト境ヲ接シ連
年干戈ヲ交エ。未ダ嘗テ其鋒ヲ挫カズ。威關左ニ震ヘリ。一
日、嫡子氏政侍食ス。氏康潛然トシテ涕ヲ出シテ曰ク。北條
氏ハ運命ハ我一世ニシテマサニ終リヲ告ゲントス。何ト
ナレバ。今氏政が食スルヲ視ルニ。一飯ニ鼓羹ヲ和スルコ
ト。二回ニ及ベリ。凡ソ人ハ貴賤トナク。日ニ食スルコトニ

次、當時ハニナレバ。鍛鍊シ習熟セザルハナシ。一飯ニ鼓羹
ヲ和スルニ。其分量ヲ諳ムセズ。足ラザルヲ以テ再ビ之ヲ
和スルモノハ。豈蠢愚ニアラズヤ。朝餉晚膳。日ニ之ヲ為ス。
事ニシテ猶ホ且ツ然リ。何況ヤ古來難ムズル所ナル無形
ハ。人心ヲ鑑知スルニ。故テヲヤ。其必ズ能クスベカラザル
コト明カナリ。人ヲ知リ士ヲ用ウルコト。アタハズンバ。良
キ士ヲ養フコト能ハズ。士ヲ養フ能ハザルトキハ。方今ハ
群雄天下ニ割據スルノ時ナリ。我目一タヒ瞑セバ。遺骸未
ダ冷カナラザルニ。強將勁敵。忽チ我が境域ヲ蹂躪センコ
ト疑ヒフ容レザル所ナリ。是我一世ニシテ。北條氏ノ運命
終リヲ告グルト。謂フ所以ナリト。

櫻所子曰。氏康ノ敏慧ナル。當ニ攻城野戰ノ事ノミニアラ

ズ。マタ人ヲ用ウル能ク其器材ニ適スルノミナラズ其子
ヲ見ルマタ炯然タル眼光アルモノナリ。而シテ其氏政カ
父祖ノ業ヲ継承スルニ足ラザルコトヲ看破スルハ夫ノ
一飯ニ致羹ヲ和スルコト。二回ニ及ベルヲ以テナリ。氏康
ノ意ヲ細瑣ナル舉措ニ用ウル。至テ縝密ナリト謂フベキ
ナリ。而テ致羹ヲ和スルノ分量ヲ知ラザルヲ見テ人ヲ知
リ士ヲ用ウルノ材ナキヲ知ル。明敏ナリト謂フベシ。左レ
バ氏政ガ粗慢ニシテ事物ニ通ゼザル。嘗テ刈麥ヲ駄シテ
過グル者ヲ見テ指シテ左右ニ問テ曰ク彼ハ何トイフ物
ゾ。左右曰ク刈麥ナリト。氏政曰ク然ラバ則チ盍ゾ炊キ以
テ座客ニ供セザルヤト。人其菽麥ヲ辨ゼザルヲ嗤フ。氏政
ト雖トモ亦白痴ニハアラザルナリ。唯其富貴ニ生長シテ。

意ヲ世ノ百般ノ事物ニ注グノ周密ナラザルヲ以テナリ。
而シテ北條氏ガ關東八州ヲ據有シ。五世ノ隆昌ヲ致スト
稱スト雖氏其實ハ三世即チ氏康ノ世ヲ終フルマデニ止
ル。氏政氏直ノ如キハ共ニ道ヲニ足ルモノナシ。唯父祖ノ
餘澤ニ由テ其盛榮ヲ保チテ天正ノ時ニ及ベルノミ。氏康
ノ我一世ニシテ北條氏ノ運命終ルト謂フモノ。鑑識アル
言ト謂フベキナリ。思フニ特リ氏政ノミナラズ富榮ニ生
長スルモノハスベテ意ヲ諸般ノ事物ニ用ウルコト疎ニ
シテ。菽麥ヲ辨ゼザルモノ多シ。故ニ疾病事故等不幸ニ遭
逢シテ其資産ヲ失フニ至レバ蹉跎輾轉頗ル窮乏ヲ致ス
モノ。世其例シ歎ナカラズ。況ヤ家ニ資産ナクシテ而シテ
粗豪ノ態ヲ學ビ。細故瑣事ニ意ヲ用ウルヲ以テ大丈夫ノ

マサニ為スベキ所ニアラズトシ。禮節ヲ守リ儀容ヲ正フ
スル人ヲ以テ。邊幅ヲ修飾スルノ小人ナリトシ。質素節約
ヲ事トスル者ヲ以テ。鄙吝ニシテ共ニ齒スベカラザルガ
如クス。此等ノ風習ニ染着セバ。喪身敗家立ドコロニ至リ。
溝中ノ瘠タルヲ免カル。モノハ幸ナリ。試ミニ視ヨ。天下
ノ事ハ。大小異ナリト雖ドモ。理ハ則チ同ジ。各自ノ財産ハ。
恰カモ昔時割據ノ英雄ガ。土地人民。城寨甲兵ヲ有スルガ
如シ。而シテ賣買抵當等ノ方法アル。搏噬攘奪。互ヒニ勝敗
ヲ爭フト何ゾ異ナラン。然レバ則チ人ノ社會ニ在ル。一タ
ビ縝密ノ用意ヲ怠ルトキハ。姦猾ノ輩其虚ヲ衝キ。窮鬼貧
神其隙ニ乘ズ。一家ノ運命。茲ニ其終リヲ告ゲ。一身ノ命脈。
亦方一旦タニ迫リ。三尺ノ組其頸ヲ絞シ。一丈ノ水其軀ヲ

溺ラスノ止ムヲ得ザルニ至ル者アリ。豈ニ帝ニ北條氏ガ
昔時ノ物語ノミナランヤ。看者宜ク自ラ儆戒シテ。疎傲ヲ
去テ縝密ナラン。丁ヲ要スレバ。則チ可ナリ。
第四 織田右府人ヲ細微ノ末ニ察シタル事
織田右府。幼字ハ吉法師。父ヲ信秀ト曰フ。信長ト號ス。人ト
ナリ英邁ニシテ大志アリ。永祿二年。天皇人ヲシテ密旨ヲ
齎ラシ。公ニ囑スルニ。機軸反正ノ事ヲ以テス。乃チ命ヲ拜
シ。十一年九月。軍ヲ整ヒテ京都ニ入ル。蹄令嚴明ニシテ。秋
臺犯サズ。京都ノ士民大ニ悦ブ。公常ニ王室ノ陵夷シ。宮闕
頽廢スルヲ歎ジ。其將士ヲシテ。役ヲ監セシメ。以テ大内
ヲ修ヌ。天正中。近畿二十餘列ヲ定メ。足利氏ニ代テ政ヲ為
ス。慨然トシテ天下ヲ平定シ。王室ヲ再興スルヲ以テ。已レ

ガ任ト為ス。功業就ルニ垂ントシテ。其臣光秀ガタメニ弑
セラル。年四十九。從二位右大臣ニ至リ。從一位太政大臣ヲ
謚ル。公ガ性虚飾ヲ喜ハズ。廷臣或ハ征夷大將軍タルコ
トヲ勸ム。公曰ク。吾何ゾ遽カニ室町氏ノ故號ヲ襲フコト
ヲ為シヤト。而シテ將士功アル。輒ト急ニ之ヲ賞シ。公廣ヲ
奨用シテ。政偏黨無シ。法令嚴峻ニシテ。姦盜屏息シ。路遺ナ
タルヲ拾ハズ。行旅索ヲ委シテ睡ル。公マタ恆ニ人ヲ細微
ノ末ニ察ス。嘗テ自ラ十指ノ甲ヲ剪リ。侍臣森蘭丸ヲシテ
其剪餘ヲ收メシム。蘭丸左右ヲ搜索シ。久フテ去ラズ。公
問テ曰ク。汝ガ何故ニ退カザルト。答テ曰ク。剪餘既ニ九ヲ
得タリ。未ダ其一ヲ見ズト。公為メニ起テ。雙袖ヲ振フ。則チ
爪ノ一スリテ墜ル。公大ニ之ヲ賞シテ曰ク。人ノ心ヲ用フ

ル當サニ此ノ如キ續密ナルシト。

又嘗テ侍臣ヲ召ス。至レハ則チ事既ニ辨ビリ。侍臣徒爾ト
シテ退ク。必クアリテ復タ一人ヲ召ス。前ノ如シ。最後ノ一
人。召ニ應ジテ來ル。伺候スルコト良久フス。亦タ事ヲ命ゼ
ズ。侍臣マサニ退キ出ントス。顧テ席上遺チタル所ノ壺芥
ヲ拾フ。テ以テ出ヅ。公俄カニ呼ビ之ヲ止メテ曰ク。坐レ。吾
レ汝デニ語ラン。凡ソ進退必ズ機トイフモノアリ。機ヲ見
テ動クモノ。是ヲ軍ノ善謀トナス。汝デガ今ノ退クガ如キ
ハ。能ク兵機ヲ知ルモノト謂ツベキナリト。

櫻所子曰。織田右府。天性忌克ニシテ。宿將功臣。往々罪ヲ獲
然リト雖ドモ。其麾下幾多ノ英傑ヲ出シ。懈惰ニシテ警メ
ガルノ士ナシ。是蓋シ公ガ續密ナル訓誨養成スル所アル

ヲ以テナリ。次下ニ記スル所ノ森蘭丸ガ光秀ノ反形アルヲ見出シタルガ如キ。蘭丸マタ公ガ左右ニ侍シテ、平素細微ノ事ニ注意ヲ情ラザルモノナリ。豐公亦身ヲ織田ノ門ニ起シ、常ニ人ヲ細微ニ察スルヲ熟知スルモノナリ。故ニ石田佐吉ヲ僧寺ニ得タル。亦公ガ為ス所ニ似タリ。今世ノ人士、動モスレバ古ヘノ英雄豪傑ヲ以テ、勇敢豪邁ニシテ、尋常細微ノ事ノ如キハ、敢テ意ヲ留メザルモノト想像スル輩多シ。是レ真ノ英雄豪傑ヲ知ラザルモノニシテ、マタ英雄豪傑ノ言行ニ於テ、深ク著意セザルモノナリ。公ガ人ヲ細微ニ察スル此ノ如クニシテ、而シテ森蘭丸ガ光秀ノ反形アルヲ謂フ。之ヲ等閑ニ聽過シ、翻テ讒毀スルモノトス。忽チ本能寺ノ變アリ。霸業半途ニシテ廢セリ。其此ノ如

キヲ致ス所以ノモ、他ニ原因アル可シト雖ドモ、抑モ亦一タヒ細微ニ察スル、鎮密ノ注意ヲ怠リタルニ由レリ。何況ヤ夫ノ陳蕃カ、大丈夫天下ヲ掃除スベシ。何ゾ一室ヲ事トセントイヒケルガ如キ。粗豪以テ自ラ居ルモノヤ。其宦官ヲ除カント欲シテ、自ラ禍ヲ取ルノ失敗ヲ招ク所以ノ者、亦宜ク然カルベキナリ。智勇ヲ兼備シテ、而シテ嚴明鎮密ナル織右府ノ如クニシテ、猶ホ一タヒ細微ニ察スルコトヲ忽カセニスレバ、禍ヲ取ルヲ免ヌガレズ。況ヤ今世ノ窮措大、漫ニ開進ノ社會ヲ睥睨シ、陳蕃ガ假聲ヲナスモノニ於テヲヤ、其喪身敗家ニ至ラザルモノハ蓋シ鮮シ。

第五 森蘭丸光秀ノ異圖アルヲ察セシ事

森蘭丸ハ、三左衛門可成ノ子ナリ。織田右府ノ近臣タリ。蘭

九謹厚ニシテ誠懇聰慧ニシテ縝密ナリ。右府甚ダ之ヲ愛
寵ス。嘗テ右府ノ長刀ヲ奉シテ側ニ在リ。刀鞘黒漆ニシテ、
欵紋數十條アリ。蘭丸潛カニ其數ヲ算シ、而シテ之ヲ記臆
ス。右府之ヲ觀知ス、而シテ言ハズ。數日ヲ経テ後、左右ニ
謂テ曰ク、能ク鞘上ノ欵數ヲ暗射スルモノアラバ、乃チ此
刀ヲ與フベシト。衆爭テ之ヲ暗射ス、而シテ中ル能ハサル
ナリ。蘭丸獨リ黙シテ言、無シ。公問テ曰ク、汝ナニ其數ヲ射
サル。蘭丸謹ムデ答テ曰ク、某嘗テ其數ヲ料記ス。今如シ知
ラサル。爲メシテ之ヲ中ルハ、是主公ヲ欺キ、以テ其賜ヲ貪
ルナリ。是某ガ深ク耻ル所ナリ。是ヲ以テ敢テ言ハズト。右
府其誠懇ニシテ欺カサルヲ悦ビ、賜フニ其刀ヲ以テス。
右府嘗テ蘭丸ガ材ヲ驗セント欲シ、命ジテ前堂ノ紙障ヲ

闔サシム。蘭丸唯シテ往ク。バ則チ障全ク闔ヅ。乃チ徐ロニ
開キ、而シテ疾ク之ヲ闔ガ。然ル後チ反命ス。右府曰ク、紙障
ハ果シテ開キタリヤ否ヤ。曰ク、闔ガタリ。然ラバ則チ彼ノ
身然トシテ聲アルモノハ、何ゾヤト。蘭丸跪坐シテ對テ曰
ク、公某ニ命ジテ障ヲ闔サシム。若シ其既ニ闔タルヲ視テ、
空シク歸ランニハ、則チ主公ノ命ヲ發スルナリ。某恐ラク
ハ諸臣ノ主公ノ命ヲ忽セニスル之ヲ以テ、端ヲ發クコト
アラシ故ニ緩開シテ之ヲ緊闔セリト。
蘭丸明智光秀ガ異志アルヲ察知シ、竊カニ右府ニ謂テ曰、
某光秀ヲ視ルニ、食スルニ方テ匕箸ヲ失セリ。是蓋シ其
志小ニ在ラサルナリ。必ズマサニ大事ヲ舉ゲントス。若シ
今日ニ於テ之ヲ除カズンバ、之ヲ後ニ悔ルモ將タ何ゾ及

ハシ。ヤト。右府以テ護スルモノトナシテ用ウルコトアタ
ハズ。幾クモ無ク。果シテ本能寺ノ變アリ。右府寢室ニ在リ。
驚キ起テ曰ク。反スル者ハ誰ゾト。蘭丸出デ、其旗幟ヲ視。
還リ報ジテ曰ク。明智光秀ナリト。右府ハ弓ヲ執テ出ヅ。蘭
丸及ビ其二弟等、肉薄拒戦シテ、之ニ死ス。

櫻所子曰。蘭丸ガ聰慧ニシテ、鎮密ナル。右府忌克ノ質アル
モ、之ヲ愛寵セル所以ノモノハ、他無シ。其謹厚ニシテ誠懇
ナル。大ニ人ヲ感動スルニ足ルアルヲ以テナリ。而シテ特
リ光秀ノ事ヲ謂フニ至テ、其讒スルモノナルヲ疑フ。亦内
府ノ運命漸ク盡クルモノニアラズヤ。光秀ガ丹波ノ龜山
ニ於テ、一城ヲ山北ニ築キ、踞シテ周山トイフ。蓋シ以テ自
ラ周武ニ擬セントスルナリ。然レドモ反形未ダ昭著ナラ

ズ。天正十年五月、愛宕山ノ祠ニ詣テ、籤ヲ抽クコト再三。寢
シテ寐セズ。其明角黍ヲ供スルモノアリ。芭ヲ脱セズシテ
食フ。其西坊ニ會シテ連歌ヲナス。歌人紹巴至ル。則チ卒然
トシテ問テ曰ク。本能寺ノ湟、深サ幾尺ゾト。紹巴愕然トシ
テ曰ク。君天ノ畏レザルヤ。何ゾ此不順ノ舉ヲ謀ルコトヲ
為ルヤト。此ニ至テ光秀ガ反形始メテ顯然タリトイフ。而
シテ蘭丸ガ敏慧ナル。光秀ガ食スルニ方リヒ箸ヲ失スル
ヲ視テ、其反カントスルノ心アルヲ察ス。炯眼炬ノ如クナ
ルモノト謂フベキナリ。而シテ蘭丸ガ能ク此ヲ知ル所以
ノモノ。平素謹厚鎮密ニシテ、刀鞘ノ款紋ヲ料記シ、敢テ主
公ヲ欺キ、以テ賜ヲ貪ラズ。障ヲ闔ルガ如キ瑣事ナレドモ、
主公ノ命ヲ廢スルトキハ、諸人が公命ヲ忽セニスルノ端

ヲ發ガンコトヲ察ス。其爪甲ヲ收ムル。一片ノ足ヲザルアル、之ヲ求メテ久シク退カズ如斯謹信ニシテ。如斯縝密ナルヲ以テ。光秀ガヒ箸ヲ失スルヲ視テ。其異志アルヲ察スルヲ得タルナリ。然レハ則チ細故瑣事ト雖ドモ。常ニ意ヲ用ウルニアラズンバ。何ヲ以テカ聰慧明敏ナルヲ得ムヤ。世上才子ヲ以テ自負スルノ徒。蘭丸カ縝密ナルガ如クナルヲ得ズ。蘭丸ガ謹厚ナルガ如クナルヲ得ズ。其聰慧亦果シテ蘭丸ノ如クナルヲ得ベカラズ。眼光亦豆ヨリモ小ナランコト必セリ。然ルモ猶ホ才子ヲ以テ自負シ。識者ヲ以テ世ニ驕リ古今ヲ叱咤シ。中外ヲ品評セントスルカ。請フ以テ反省スル所ヲ知レ。

第六 北條氏直蜜柑ヲ德川氏ニ贈リタル事

天正中。江南ノ人始メテ香橙ヲ輸入ス。香橙ハ即チ俗ニ九年母イ呼做スモノナリ。京都人某之ヲ得テ。コレヲ濱松ニ献ズ。家康公喜テ曰ク。是ハ珍菓ナリト。其半ヲ折チ。之ヲ北條氏ニ贈ル。相模ノ君臣。之ヲ見テ相詬リテ曰ク。遠江三河ノ地ニハ蜜柑ナキヤ。我マ廿ニ數千顆ヲ贈リ。以テ遠列人ヲシテ驚駭セシメンノミト。輒チ蜜柑ヲ巨籠ニ實シ。驛夫數十人ヲ雇ヒ。扛シテコレヲ濱松ニ送致ス。家康公之ヲ視テ冷笑シ。左右ニ語テ曰ク。吾曩キニ江南ノ香橙數顆ヲ送ル。小田原ノ人視テ以テ尋常一樣ノ蜜柑トスルモノナラシ。氏直ハ猶ホ年以フシテ事ヲ解セサル亦宜ナリ。然リト雖トモ。宿將老臣其人ノ在ルアリ。而シテ此兒戲ヲ為ス。北條氏ノ衰運ナリト。

櫻所子曰。初メ氏康其子氏政ノ食スルヲ視テ。北條氏ノ業
ノ久シカラザルヲ知ルハ。能ク其機ヲ察スルモノナリ。而
シテ氏政果シテ氏康ノ見ル所ノ如ク。富貴ニ慣熟シテ世
ノ事情ニ達セズ。刈麥ヲ炊キ。座客ニ饗セントシ。殆ト人ヲ
シテ失笑セシム。而シテ氏直ニ至テハ。更ニコレヨリ甚シ
キモノアル。推シテ知ルベキナリ。前ニ記スル所ノ江南ノ
橙子ヲ見テ。尋常ノ蜜柑トナスカ如キニ至テハ。人ヲシテ
捧腹ニ堪ザラシム。然ルニ相州ノ老臣宿將。亦一人ノ茲ニ
着意スルモノナキ。是則チ累世ノ武威。關東ハ刈ニ震ヒ。主
從同シク驕縱粗豪ニ至リ。天下タゞ北條氏アルコトヲ知
ルモノ、ミ。故ニ德川氏ノ如キハ。視テ以テ小國ノ領主ト
スルニ過ギズ。此ヲ以テ其贈遺スル所。亦此ノ如キ珍菓ナ

リトイフコトヲ察セサルニ坐スルノミ。是則チ北條氏ノ
社稷茲ニホロボル所以ナリ。思フニ一國一家。大小同シカ
ラスト雖氏。其理亦大ニ殊ナルナシ。主翁ニシテ既二人ニ
驕ルトキハ。其妻妾奴婢モ。亦遂ニ二人ニ驕ル。家ヲ擧ゲテ人
ニ驕ルニ至レバ。鄉黨之ヲ疾ミ。親戚之ヲ疎ンズ。而シテ其
家ノ繁榮ヲ致スモノ。未ダ嘗テコレアラサルナリ。而シテ
其人ニ向テ驕傲ナル所以ノモノハ。他無シ。恃ム所アルヲ
以テナリ。富貴ヲ恃ムテ人ニ驕ルモノハ。富貴ノ久ク保ツ
ベキモノニ非ルコトヲ知ラズ。オヲ恃ムテ人ニ驕ルモノ
ハ。才智アリト雖ドモ。亦窒礙スル所アルヲ知ラズ。勇ヲ恃
ムテ人ニ驕ルモノハ。大勇ハ怯ノ如クナルベキコトヲ知
ラズ。女子ノ色ヲ恃ムテ人ニ驕ルモノハ。姿色ノ容易ニ衰

老スルヲ曉トラス。是等ハミナ其意ヲ用ウルノ續密ナラズシテ。徒ニ現在ノ地位ヲ以テ。而シテ他ニ驕ルモノニシテ。終ニ自ラ禍ヲ取ルコトニ思及セサルモノタリ。豈ニ省察セズシテ可ナランヤ。

第七 石田三成茶ヲ豐公ニ進メタル事

豐臣秀吉公。嘗テ鷹ヲ野ニ放ツ。渴スルコト甚シ。一僧院ニ投ジ。茶ヲ乞フ。太ダ急ナリ。行童アリ。一大碗ニ茶ヲ進ム。微温ニシテ盛ルコト七八分ニ到ル。公一喫シテ快ト稱ス。更ニ一碗ヲ進ム。以テ熱シテ半碗ニ滿タス。公徐ロニ喫了シ。又一碗ヲ要ス。是ニ於テ代ルニ。小碗ヲ以テス。太ダ熱シテ遠カニ喫ス。ベカラズ。公行童ノ才敏ナルヲ愛シ。コレヲ寺僧ニ請ヒ。俾歸リ。以テ侍臣ト爲シ。漸ク之ヲ愛重ス。後チ竟

五奉行ニ列ス。石田治部少輔三成。是ナリ。

一歳暴カニ雨アリ。澁江ノ水漲溢シ。隄防決壊ス。三成奉行タリ。急ニ京橋畔ノ倉庫ヲ發キ。米苞數千百ヲ出シ。土民ニ命ジテ運搬セシメ。以テ其壊ルノ所ヲ塞グ。而シテ雨歇ミ水退ク。三成令シニ曰ク。速カニ土豚ヲ造リ。以テ米苞ニ換エルトキハ。則チ米ハ汝等ガ取ルニ任カスト。土民爭テ之ニ趨リ。隄防日ナラズシテ成就シ。而シテ其堅實ナルハ。未ダ決壊セザルノ前ニ過ギタリ。

櫻所子曰。三成ガ敏慧ニシテ。豐公ニ愛寵セラレ。恰カモ森蘭丸ガ。織田右府ニ愛寵セラレ。ガ如シ。而シテ蘭丸ハ可成ノ子ナレバ。右府ノ近臣タル宜ク然ルベシ。三成一小寺ノ行童タリ。卒然茶數碗ヲ豐公ニ進メ。遂ニ五奉行ニ擢用

セラレ。夫ノ景勝ノ籠城關原ノ戦争。事遂ニ成ラズト雖ト
モ。徳川氏ト衡ヲ中原ニ争フニ至ル。初ノ三成ノ水口四萬
石ニ封ゼラルニヤ。豐公問テ曰ク。汝ガ人ヲ得タルカ。曰ク
一人ヲ得タリ。島左近ト曰フ。公曰ク。孤モ亦其驍名ヲ聞ク。
豈ニ薄祿ヲ以テ。小家ニ羈束セラル。モノナランヤト。三
成曰ク。臣ガ封ノ半バヲ割テ之ニ與フ。是ヲ以テ能ク留マ
ルモノ。ミト。公歎ジテ曰ク。主從祿ヲ同フスルハ。古來未
ダ聞カサル所ナリ。汝ニシテ能ク之ヲ為ス。偉ナリト謂フ
ベシ。張儂モ亦必ズ其知遇ニ感激セント。亦以テ三成ガ所
為。天下ノ士ヲ重ムズル。敢テ孟嘗平原等ノ諸公子ニ讓ラ
サルヲ見ルベシ。而シテ此等ノ非常有為ノ志氣。茶ヲ進ム
ルノ日ニ穎脱ス。又嘗テ暇畔録ニ美奴温酒ノ事アリ。三成

ガ茶ヲ進ムル事。粗相似タリ。請フ之ヲ左ニ叙セシ。
末ノ季。參政相公鉞翁。枕ニ於テ將サニ容貌才藝兼全ノ妾
ヲ求メントス。旬餘ヲ経テ。未ダ意ニ慍フコト能ハズ。忽チ
美奴ナル者ヲ以テ至ルアリ。姿色固ニ美ニシテ。其藝ヲ問
ヘバ則チ曰ク。能ク酒ヲ温ムト。左右皆失笑ス。公漫爾トシ
テ留メテ之ヲ試ム。事ヲ執ルニ及デ。初メハ甚ダ熱ク。次ハ
畧寒ニ。三次ハ微温ナリ。公方ニ飲ム。既ニシテ毎日並ニ初
メノ第三次ノ如クス。公喜ムテ遂ニコレヲ納ル。公ガ身ヲ
終フルマデ。未ダ嘗テ過不及アラズ。時ニ歸附シテ後チ。公
携テ京ニ入ル。公死シテ囊橐ニナ所有トナス。因テ臣ニ富
メリ。人稱シテ美娘子ト曰フモノ。是ナリ云々。
行童ハ賤豎ノミ。婢妾ハ賤隸ノミ。然レドモ一事ニ意ヲ用

ウル。縹密精到ナレバ。則チ能ク人ヲ動カス。一ハ四海ヲ混
一スルノ英雄ニ愛寵セラレ。一ハ宰相タル人ニ喜バル。若
シ初メ茶ヲ進ムルニ意ヲ用ヒズ。酒ヲ温ムルニ心ヲ致サ
ズンバ。行童婢妾。同ク切名富榮ヲ取ルニ由シナカラシ。縹
密ノ効用。亦大ナリト謂フベシ。

第八 可兒才藏兵學士ヲ擯斥セル事

可兒才藏ハ。加藤肥後守清正ニ仕フ。驍勇ヲ以テ名ヲ知ラ
ル。或時肥後ニ兵學士來リテ。仕ヲ求ムルコトアリ。清正之
ヲ登庸セント欲ス。才藏之ヲ止メテ曰ク。夫ノ兵學士。頃日
某ト共ニ食シタルニ。飯ヲ食ヒ殘セリ。兵學也者ハ。敵ハ虚
實。強弱ヲ測リテ。軍隊ヲ指麾スルモノナリ。然ルニ朝夕食
スル所ノ飯。一椀中ノ分量ヲスラ測ルコト。アタハズ。如何
ノ敵ノ虚實ヲ測リ。強弱ヲ知ルモノナランヤト。此ニ於テ

清正其士ヲ聘スルヲ止メタリ。

櫻所子曰。世人ガ古ヘノ驍將勇士ノ事ヲ傳フル。唯謂ノ某
ハ勇悍ナリ。某ハ強剛ナリト。而シテ其強且ツ勇ナルモノ。
亦啻ニ強勇ノミニニアラズシテ。平生意ヲ用ウル所。常倫ニ
超駕スル者アルニ至テハ。翻テ輕々ニ看過スルモノアリ。
可兒才藏ノ如キ。其驍勇絶倫ノ士タルハ。人ミナ之ヲ知ル。
而シテ此一事ヲ以テ視ルモ。亦徒ニ勇悍ナルノミニ非ル
ヲ知ルニ足レリ。氏政ガ一飯ニ再ヒ致羹ヲ和スルヲ見テ。
北條氏ノ滅亡遠カラサルヲ知リタルハ。氏康ノ明ナリ。一
椀ノ食ヲ餐シ盡サバ。ルヲ視テ。其兵學ノ實用ニ供スベカ
ラサルヲ知ル。才藏ノ鑑識ト。マタ其意ヲ用フルノ恆ニ縹

密ナルトハ其聰明氏康ニ減ゼスト謂フモ可ナリ。

第九 千利休死ヲ賜フニ及ビ遽色ナカリシ事

千利休ハ和泉堺浦ノ人ナリ。初メ茶儀ヲ武野紹鷗ニ學ブ。紹鷗ハ茶道ニ於テ我邦ノ盧陸タリ。紹鷗嘗テ利休ガオヲ試ミント欲シテ命ジテ庭中ヲ掃除セシム。利休諾シテ往ケバ。則チ茶亭ノ前。纖塵ヲ留メズ。帚痕地ニ印シテ。淨潔拭フガ如ク。林樹蕭洒。蒼翠洗フガ如シ。利休傍徨ス。復タ帚ヲ下ス處ナシ。乃チ林中ニ入リ。試ミニ一樹ヲ揺カス。墜葉亂點シ。更ニ一段ノ雅趣ヲ添得タリ。紹鷗ニ報ジテ曰ク。謹ムデ命ヲ了セリト。紹鷗之ヲ視テ。其奇オヲ歎ス。乃チ秘訣ヲ舉ゲテ之ヲ授ク。利休遂ニ宗匠ノ名ヲ得タリ。此時千戈漸ク収マリ。茗讌盛リ行ハル。利休ノ名聲都下ヲ傾ク。天正中。

後陽成天皇豐關白ガ聚樂ノ第二章スルヤ。豐公茶儀ニ嫺フモク數人ヲ選ビ。利休ヲ以テ選首トス。豐公一日南禪寺ニ游ブ。路ニ黒谷ヲ過ク。時方ニ清明ニ屬シ。櫻花撩亂タリ。タマタマ一婦人ノ僕ヲ從ヘテ行。花ヲ觀テ過ルモ。アリ。乍チ前驅喝道ノ聲ヲ聞キ。趨テ花間ニ避ク。豐公輿中ニ在テ瞥見スレバ。美ニシテ艶ナリ。就テ問ハシメテ曰ク。誰氏ノ女ゾト。僕對フルニ茶博士利休ノ女。鵲屋某ニ適キ。新ニ寡ニシテ孤栖ヲ守ル者ナリト。事ヲ以テス。豐公之ヲ聞テ心動キ。載テ歸ラントシ。諭スニ慇懃ノ意ヲ以テス。女辭シ曰ク。賤妾近口良人ヲ喪ヒ。哀泣ノ餘。安ゲ能ク冥席ヲ奉スルヲ得ムヤト。豐公之ガ為メニ魄褫ハル。遂ニ近臣ヲ遣ハシ。之ヲ其父利休ニ強迫セシム。利休肯ンビズシテ曰ク。

吾此女ヲ賣テ奇利ヲ貪ルハ嗤リヲ被ルニ忍ビズ敢テ辭
ス。豐公之ヲ奈何トモスルコトナシ。而シテ之ヲ銜ム。利休
嘗テ大徳寺ノ僧古溪ト友トシ善シ。自ラ其像ヲ刻シテ之
ヲ其山門ノ上ニ置ク。豐公之ヲ聞キ大ニ怒ラ曰ク。山門ハ
天皇公卿ノ出入スル所ナリ。利休何ニ為ス者。敢テ其軀
ヲ天子公卿ノ上ニ置ク。不遜此ノ如クナル。誅セズンバア
ルベカラサルナリト。竟ニ中村一氏ヲシテ利休ガ家ニ就
テ死ヲ賜フ。旨ヲ傳ヘシム。時ニ利休其徒宗嚴ト茶ヲ一
室ニ點ズ。命ヲ聞テ敢テ驚ケル色無ク。花ノ瓶ニ挿ミ。茗數
椀ヲ啜リ。儀畢。徐口ニ起テ遺物ヲ所親ニガテ。從容トシ
テ自殺ス。

櫻所子曰。茶博利休ガ初メ紹鷗ニ從テ茶儀ヲ學ブ。夫ノ處

中ニ樹葉ヲシテ亂點セシム。細瑣ナル事ナリト雖ドモ。是
即テ紹鷗ガ豎子教ウベシトシテ。秘訣ヲ傾ケテ盡ク之ヲ
授ケタル所以ナリ。而シテ其女ニ依テ富榮ヲ博スルヲ耻
ヅルノ心ヲ推ストキハ。平素ノ志操亦必ズ廉潔ナルヲ見
ルニ足レリ。何ゾ後チノ茶儀ヲ奉ズルモノ。區々タル器玩
ニ其志ヲ喪ヒ。然ラザレバ則テ茶器ヲ賣買シテ。苦窳ノ椀
折脚ノ鼎。多ク價ヲ以テ真トシテ人ヲ欺クガ如キモノナ
ランヤ。且ツ其死ヲ賜フニ及ビ。神色自若タル夫ノ平賀朝
雅ガ。後鳥羽上皇ノ宮ニ在テ碁ヲ圍ム時。其奴來テ幕府在
京ノ將士ニ命ジ主公ヲ討ツ事已ニ急ナリト云フ。朝雅毫
モ遽色ナク。坐ニ復シ子ヲ懷中ニ納メ。關東ノ使至ル方ニ
臣ヲ誅ス。請フ朝ヲ退カント奏シ。乃チ出デ。家ニ歸ヘリ。

タルガ如キ。太田道灌ノ浴室ニ在テ。突然槍ヲ以テ擬カルルニ臨ミ。和歌ヲ口占シタルガ如キ。所謂其元ヲウシナフコトヲ忘レサルモノナリ。而シテ朝雅道灌。固ヨリ其等ノ覺悟アルベキコトニシテ。深ク恠訝スルニ足ラズトイヘドモ。利休ノ如キ。假令諸豪貴ト交ハリ。技藝ヲ以テ自ラ高ブルモノナリトモ。一茶博士ノミ。而シテ其從容死ニ就ク。朝雅道灌ニ齊シキモノハ。亦其平素心ヲ用ウル所ノ如何ヲ視ルニ足レリ。而シテ利休ガ此氣象アル者。初メ林中ニ入テ樹ヲ揺カス時ニ於テ。其穎ヲ囊脱セリ。古人曰ク。一技一藝アルモノハ。ミナ與モニ語ルベシト。利休モ亦庸常ノ人ニアラザルナリ。

第十 雲居和尚少年ノ惡戯ヲ為スヲ知リタル事

僧雲居ハ。塙園右衛門ノ子ナリ。才識德邁。德望並ビ高シ。園右衛門ノ大坂ノ役ニ死スルヤ。雲居其遺骸ヲ索メテ厚ク之ヲ葬ル。仙臺侯伊達政宗之ヲ招聘ス。雲居乃チ路ヲ東山道ニ取り。マサニ陸奥ニ赴ムカントス。其青野原ヲ過グルニ及ビ。草賊アリ。數人路ヲ遮ギリテ曰ク。奴輩凍餓ニ苦ム。請フ貴僧奴輩ガタメニ酒錢ヲ與ヘヨト。雲居自若トシテ之ニ對テ曰ク。腰纏太ダ乏シ。卿等ガ窮ヲ防グノ助ケトナラバ幸ナリト。囊ヲ倒ニシテ之ヲ與ヘ。顧ミズシテ行ク。賊輩之ヲ筭シテ七兩ノ金ヲ得タリ。各其一ヲ分ツ。猶ホ雲居尾シテ來リ。輒テ曰ク。請フ其衣帶ヲ并セテ之ヲ與ヘヨ。雲居是ヲ聞テ。錫ヲ地ニ抛テ曰ク。卿等ガ悟ラサル亦甚シ。千里蹣跚スルハ。僧法師ト雖トモ。亦為ス可カラズ。卿等

必ズ之ヲ得ント欲セシニハ。我が生命ヲ并セテ之ヲ取レ
ト。地上ニ端坐シテ動カズ。賊輩側焉トシテ感悟シ。相語テ
曰ク。吾儕多年劫剽ヲ事トス。未ダ此ノ如ク神色自若トシ
テ生死敢テ心ニ關セザルガ如クナル人ヲ見ズ。是凡僧ニ
アラザルナリト。各其金ヲ懷ヨリ出シテ之ヲ返シ。遂ニ髮
ヲ削テ其徒弟タランコトヲ乞フ。雲居乃チ曰ク。卿等苟モ
此ノ如クナルトキハ。貧道モ亦敢テ辭セズト。其ヨリ相從
テ仙臺ニ至リ。松島瑞岩寺ニ住スルヤ。各僧業ヲ脩シ。以テ
世ヲ終フ。

雲居ノ瑞岩寺ニ在ル。毎夕御島ノ石窟ニ往キ。禪定ニ入ル。
惡少年アリ。雲居ノ悟道如何ヲ試ミント欲シ。路傍ノ松枝
ニ踞シテ其來ルヲ待ツ。漸クニシテ雲居至ル。則チ手ヲ以

テ固ク其頭ヲ攫ム。雲居佇立シテ動カズ。乃チ之ヲ放ツ。他
日。其少年雲居ニ問テ曰ク。尊者ノ御島ニ至ル。路ニシテ恠
ヲ見ザルヤト。雲居曰ク。未ダ曾テ之ヲ見ズ。但暗中ニ我頭
顱ヲ攫ムモ。ハアリ。其手肉ノ温暖ナルヲ覺フ。以為ク年少
輩ガ戲ヲ作スノミト。

櫻所子曰。禪僧ガ禪機ヲ談ズルハ。吾ガ未ダ解知セザル所
ナリ。而シテ其皮相スル所ヲ以テ之ヲ言ハバ。則チ世ニ所
謂膽力ヲ養フモノト似タルコト多シ。而シテ其膽力ナル
モノ。意外ノ事ニ遭フモ。敢テ其心傾動セザルヲ謂フ。其心
傾動セザルト否トハ。他ニアラス。平素用意縝密ニシテ。精
神靜寂ナルヲ以テナリ。視ヨ雲居和尚ガ。曠原賊ニ遭フ。固
ヨリ身命ヲ并セテ之ヲ惜マザルコトヲ。平常ニ覺悟スレ

バ。千萬人ト雖ドモ何ヲカ懼レンヤ。暗中物アリ其頭ヲ攫ムモ其心恒ニ靜寂ナルヲ以テ。手肉ノ温暖ナルヲ以テ。少年ノ惡戲ナルヲ知ル。其恒ニ工夫ヲ用ウルノ縝密ナルガ致ス所ニアラズシテ何ゾヤ。

第十一 江村專齋平生些字ヲ持シタル事

江村專齋ハ、赤松ノ庶族ナリ。其父既在專齋ヲ新在家ニ生ム。專齋年十五ニシテ。鑒術ヲ法印徳岩ニ學ブ。又自ラ瀛洛ノ學ヲ攻ム。儒ヲ以テ肥後侯加藤清正ニ事フ。清正卒シテ後ヲ致仕ス。寛永中美作侯森忠政。其名ヲ聞テ之ヲ聘。遇ズルニ賓師ノ禮ヲ以テス。遂ニマタ之ニ遊事シテ以テ世ヲ終フ。專齋少壯ヨリ。務メテ攝養ヲ為ス。齡九十ヲ過ギテ。視聽少壯ノ時。異ナラズ。後水尾上皇之ヲ聞キ召見シテ

修養ノ術ヲ問フ。專齋奏シテ曰ク。臣固ヨリ他術無シ。平生唯一些字ヲ持スル。上皇其故ヲ問フ。曰ク。食ヲ喫スル些。思慮モ些。養生モ亦些ナルホミト。上皇大ニ之ヲ感賞シタマフ。寛文四年七月。勅シテ院恭ヲ許シ。鳩杖一黄金一ヲ賜フ。後々又扇紙等ノ賜アリ。草莽ノ士至尊ノ寵顧アル斯ク。如キ實ニ儒林ノ榮ト謂フベキナリ。

附記室町氏ノ時。一庵人アリ。割烹ニ善キヲ以テ。寵用セラレ。其齡百有餘歳ニシテ。狀貌ハ則チ少壯ノ人ノ如シ。或人之ヲ問フ。曰ク。吾子唯百歳ノ壽ヲ保ツノミナラズ。耳聰ニシテ目明カナリ。體健ニシテ肌膚澤アリ。意ヲニ不老長生ノ術アリテ然ルカト。庵人笑テ曰ク。是難事ニアラスト。因テ一大些字ヲ書シ。之ニ與テ曰ク。余庵人ヲ以テ。刀俎ニ從

事スルコト。茲ニ數十年、故ニ諸鳥ヲ宰割スルモノ。年ニ其
幾百千匹ナルヲ知ラス、嘗テ試ミニ其食囊ヲ取テ之ヲ檢
スルニ、鳬鴨鴈ノ屬ハ、ミナ食囊充實飽滿セストイフコ
ト。無シ、獨リ鶴ニ至テハ、則チ然ラズ、其食囊容ル、所率チ
七八分ニ過ギズ、絶テ其充實飽滿セハズ。ヲ見ズ、吾是ニ
於テ、初メテ其能ク千年ハ壽ヲ保ツヲ知ルナリ、吾マタ是
ニ於テ、初メテ人壽ノ衛生ニ原クヲ知ルナリ、是ヨリシテ
後チ、凡ソ口腹ノ慾、一ニ此字ヲ持シテ、其限量ヲ失ハズ、以
テ今日ノ壽ヲ致セリ、他ハ方術アルニ非ルナリト。
櫻所子曰、專齋ノ事、庖人ノ説ト相似タリ、而シテ鳬鴨鴈雁
ト、鶴ノ食囊トヲ檢シテ、養生ノ道ヲ悟リタル事ノ如キ、真
ニ庖人ガ注意ノ縝密ナルニ由テ之ヲ得タルモノト謂フ

ベキナリ、夫ノ粗豪浮躁ナル、固ヨリ世ニ處スル上ニ不利ナ
ルヲ知ラス、其衛生ニ於ケル亦宜キニ適セズ、苟モ飲食
衣服宮室妻妾ノ奉、皆能ク之ヲ節シ、所謂此字ヲ持スルニ
非ンバ、必ズヤ救藥スベカラサルノ病症ヲ發シ、扁倉ト雖
ドモ之ヲ奈何トモスベカラサルニ至ラン、飲食ハ甘美ナ
ルヲ以テ、食テ必ク節ヲ過ギ、妻妾ハ艷慧ナルヲ以テ、愛シ
テ其度ヲ過ゴス、是則チ富貴者ノ壽ヲ得ルコト少キ、所以
ニアラズヤ、特ニ衛生ノ事ノミナラス、閑話ヲナシ、閑書ヲ
讀ム、分寸ノ光陰ヲ徒消スルモ、未ダ學業ノ進歩ヲ妨グル
ニ足ラズトシテ、螢雪ノ勉強ヲ懈ルモノ多キハ、世上學ニ
遠キ人ニ乏シキ、所以ニアフスヤ、鉛銖ヲ費スモ、未タ以テ
貧ヲナスニ至ラズ、錢厘ヲ愛ムモ、未ダ以テ富ヲ致スニ足

ラザルナリトシテ、財ヲ愛ムニ意ナキモノ多シ。是世間富ム者ノ至テ寡ク、貧キ者ノ極メテ多キ所以ニアラズヤ。小善為スニ足ラザルナリ。小惡懼ル、ニ足ラザルナリトシテ。其小善モ之ヲ積ハトキハ、以テ名ヲ成スニ足リ。其小惡モ之ヲ累ヌレバ、以テ身ヲ亡ボスニ至ルコトヲ知ラズ。是社會道德アル者ハ太ダ稀ニシテ、姦猾ニシテ刻薄ナル者多ク、甚シキハ法網ニ觸ル、者相踵テ出ル所以ニアラスヤ。既ニ飲食ノ其身ヲ養フベキ者スラ、少ク其度ヲ過グルトキハ、天壽ヲ夭折スルノ媒トナル。況ヤ奢侈怠惰等ノ如キ、必ズ人ノ家ヲ敗ヅリ、人ノ身ヲ喪ボスモノニ於テヤ、此細ノ事ト雖ドモ、之ヲ忌避スルコト鳩毒ノ如クスベシ。然レバ則チ、勤勉節儉共ニ以テ此字ヲ持シ、則チ光陰ヲ空

過スルモ此財ヲ費スコトモ亦此ナルニ非スンバ得ベカラズ。之ヲ再言スレバ、人生萬般細事ノ事トイヘドモ、恆ニ縝密ノ注意ヲ懈ラザルニ在リ。豈ニ帝ニ攝生ノ事ノミナランヤ。

第十二 徳川秀忠公ノ縝密謹厚ナリシ事

徳川秀忠公、嘗テ病ニ臥ス數旬、未ダ敢テ一朝モ梳頭ヲ廢セズ。人ニ語テ曰ク、然カク病ハト雖ドモ、天下ハ政ハ敬ムデ之ヲ聽カズンバアルベカラズ。豈ニ蓬頭垢面ニシテ、之ニ接スベキモノナランヤト。又嘗テ左右ニ語テ曰ク、人恆ネニ謂フアリ曰ク、浮世ハ夢ハ如シ、寸外ハミナ暗黒ナリ。何ゾ時ニ及ムデ娛樂セザランヤト。斯言大ニ謬マルモノト云フベシ。浮生既ニ短カケレハ、マスマス敬愛セザルベ

カラズ敬愛スベキの時亦長カラガルナリ。豈勤勉セサルベケンヤト。

公常ニ花枝ヲ瓶ニ挿ムデ之ヲ愛玩ス。茶儀アル毎ニ公自ラ之ヲ床ニ安ク冬日牡丹ヲ献ズルモハアリ公一タビ覽テ善シト稱ス。左右公ニ白ッシテ云ク。盍ゾ之ヲ瓶ニ挿マガルヤト。公曰ク。此花美ハ則チ美ナリト雖ドモ節序ノ正ニアラズ賞玩スルヲ欲セガル所ナリト。

公タマタマ太公家康ヲ駿府ニ省ス。太公之ヲ貳室ニ館ス。淹留月ヲ踰ユ。太公竊カニ女監阿茶ヲ召シ之ニ諭シテ曰ク。將軍青年。羈旅ノ寂莫想フ可キナリ。女波奈ヲシテ其起居ヲ候セシメバ或ハ以テ無聊ヲ慰ムルコトアラシカト。女監謹ムデ諾シ乃々人ヲシテ私カニ之ヲ公ニ報セシ

メ。波奈ヲ呼テ懇懃ニ意ヲ授ケ以テ之ヲ遣ル。波奈年十八。明眸皓齒。光艷人ヲ照ス。是夕美服靚妝。侍女一人ヲ携ヘ。潛カニ後園ヨリ徐歩シテ公ノ館ニ到ル。公則チ盛服ヲ着ケ儼然トシテ室ニアリ。戶外微カニ剥啄ノ聲アルヲ聞キ。乃チ起テ戸ヲ啓キ。波奈ヲ延テ座ニ上ラシム。波奈乃チ太公賜フ所ノ點心一盒ヲ齎ス。公拜跪シテ之ヲ受ケ。即チ波奈ヲ促ガシテ去ラシメ。親カラ燭ヲ執リ。之ヲ戶外ニ送ル。波奈茫然トシテ失フ所アルガ如シ。歸テ之ヲ女監ニ報ズ。太公之ヲ聞キ。數ジテ曰ク。將軍ノ謹厚ナルコト。此ハ如シ。我雲梯ニ駕スト雖ドモ及ズベカラスト。

太公或時本多正信ニ諭シテ曰ク。將軍ノ謹密ハ洵トニ美トスベシ。然リト雖ドモ事亦宜ク謹密ニスベカラサルモ

ノアリ。思ハズンバアルベカラズト。正信唯シテ退久。正信
他日公ニ謁シ。因テ席ヲ前メテ曰ク。殿下ノ謹密甚シ。請テ
少ク其言ヲ放誕ニセヨ。是太公ノ訓ナリト。公咄テ曰ク。太
公ハ放誕ヲ説ク。人之ヲ買フモハアリ。他無シ其實價アル
ヲ以テナリ。我ハ一物ナキ。縱使其放誕ヲ説カモ。人誰カ信
ジテ之ヲ買ハンヤト。

櫻所子曰。台徳公ノ謹密淳厚ナル。當時武人粗野ノ習氣ナ
ク。儼然トシテ大宰相ノ風アリ。此人ニシテ東照公ノ創業
ヲ輔ケ。遂ニ守成ノ規模ヲ定ム。三百年ノ昇平ヲ致スモ。
亦固ヨリ偶然ニアラザルヲ知ル。

第十三 紀州侯賴宣其生母ニ牽牛花ヲ贈リタル事

紀侯賴宣嘗テ牽牛花一盆ヲ其生母養珠院ニ贈テ曰ク。朝

開ノ花午ヲ過ギテ猶小榮フ。以テ一榮ニ供スルナリト。養
珠院之ニ答ヘテ曰ク。朝花ノ贈奇觀喜ブベシ。抑モ人ノ壽
モ亦此花ノ主トシ其養フコト宜キニ適フトキハ短キモ
ハモ亦之ヲシテ長カラシムベキナリ。即チ家ヲ齊ヘ國ヲ
治ムルモ亦此ノ如シ。福祚何ゾ長久ナラザルヲ患ヘンヤ。
鮑廟々々答謝ハ次。斯カ之ニ及ブト。

櫻所子曰。徳川氏ノ起ル。賢良輩出ス。特リ閣老タリ所司代
タルモノ。其人ニ乏シカラザルノミナラズ。脂粉ノ人ニシ
テ。亦往々丈夫ニ勝サルモノアリ。台徳公ノ乳媪ガ本多正
信ヲシテ赧然タラシメタルガ如キ。是ナリ。養珠院ハ則チ
則萬方ニシテ粧資ヲ捐テ。塙園右衛門ヲ養フ。第一卷革
風ナル哉。其心ヲ用ウル。鎮密周到ニシテ。一盆ノ牽牛花ト

雖トモ、敢テ之ヲ等閑ニ看過セズ。其答謝ノ語次、生ヲ衛リ
國ヲ治ムルノ事ニ及ブ。若シ意ヲ用ウル續重ナラズンバ、
聖經賢傳ヲ讀ムト雖ドモ、亦雲煙ノ眼ヲ過ルト一般ナラ
シノミ。

第十四 板倉勝重其室ヲ戒メタル事

板倉勝重、初、四郎右衛門ト稱ス。後、子伊賀守ニ任ズ。徳川
氏守成ノ良臣ナリ。勝重幼年ニシテ釋門ニ入り、讀書ヲ好
ミ、螢雪ノ業ヲ怠ラズ。父好重弟定重ハトモニ戰死シ、兄
忠重ハ疾ニ由テ卒ス。而シテ子ナシ。家康公乃チ勝重ヲシ
テ髮ヲ蓄ヒ吏トナラシム。終ニ大ニ任用ヒラル。天正年間、
家康公駿府ニ城キ、濱松ヨリ徙ルヤ、勝重ヲ以テ奉行トス。
勝重再三固辭スレドモ許サレズ。乃チ公ニ請テ曰ク、唯願

ハクハ家ニ歸テ婦ト謀ルコトヲ得セシメタマハト。公ハ
テ之ヲ許ス。勝重辭シテ退ク。其室迎ヘテ曰ク、人アリ良人
ノ慶事アルコトヲ告グ。果シテ信ナリヤ否ヤト。勝重祓服
ヲ脱シ、坐シテ之ニ謂テ曰ク、吾今日奉行ノ命ヲ受ケタリ
ト雖ドモ、卿ト之ヲ謀ラント欲スルガ故ニ、辭シテ歸レリ。
卿ハ斯事ヲ以テ如何トスルゾ。室驚キ對ヘテ曰ク、是ハ公
ケノ事ナリ。妾ガ敢テ知ル所ニハアラスト。勝重曰ク、否ナ
然ラズ。古ヘヨリ官吏タル者、内謁ヲ以テ事ヲ敗ル。其例之
シカラズ。自今以後、卿若シ我が為ス所ニ於テ、一モ喙ヲ容
ル、一モコトナク、一モタ苞苴私謁、一モ受クル所ナキヲ誓ハ
吾ハ則チ命ヲ拜セン。室曰ク、敢テ唯命コレ從ハザランヤ
ト。勝重言畢リテ、復タ祓服ヲ被。袴ヲ穿テ出ヅ。室之ヲ送り

袴後ハ初、疾セルヲ見、呼デ之ヲ正フセント欲ス。勝重怒テ曰ク、卿忽チ誓ヒニ背クニハ非ズヤト。室恐懼シテ罪ヲ謝ス。是ニ放テ往キ命ヲ拜シテ職ニ就ク。訟獄平正ニシテ庶績大ニ舉ガル。慶長中、勝重加藤正次ト。京都所司代トナリ。裁判及ビ寺社ノ事ヲ掌ドル。尋デ正次罷メラレ、勝重ニ專仕セラル。當時大亂漸ク定マリ、民情猶ホ洶然タリ、事務亦忽劇ヲ極ム。勝重ガ明敏詳雅ナル、庶民悦服セガルハナシ。元和中、老ヲ以テ官ヲ辭ス。三代將軍家光公、親カラ其多年ノ勞ヲ慰メ、且ツ人ヲ舉ゲテ代ラシメシコトヲ命ズ。勝重曰ク、臣ガ長子重宗、コソ能ク其任ニ堪ベシト。乃チ重宗ニ命ジテ京都所司代タラシムト云フ。櫻所子曰、徳川氏ノ起ル、二百年來、四海擾乱ノ後ヲ兼ケ、勳

モスレハ、獨ヲ中原ニ爭ハントスルモノ、肩ヲ比バテ立ツ。斯時ニ方リテハ、實ニ創業ノ難ハ既ニ過ギタリト雖ドモ、守成ノ難キ、亦決シテ創業ノ容易ナラザルガ如クニハアラズト謂フベカラズ。然ルニ局ニ當ル者多ク其人ヲ得、老中ニハ、松平信綱、土井利勝、青山忠俊、酒井忠世ノ如キアリ。京都所司代ニハ、板倉勝重父子ノ如キアリ、能ク民心ヲ収攬シ、天下ノ英雄ヲシテ一隅ニ罷息セシム。是則チ三百年間ノ昇平ヲ致ス所以ナリ。勝重初メ駿河奉行ノ命ヲ拜スルニ方リ、歸テ婦ト謀リ、然ル後チニ命ヲ拜セント謂フガ如キ、一應之ヲ聽ケバ、殆ンド失笑スルニ堪ヘタルモノ、如シ。再三此言ヲ玩味スレバ、理宜ク然ルベキモノタリ。何トナレバ、男女室ニ居ルハ人ノ大倫ナリ、而シテ家政百般

事之ヲ婦ト謀ル。公ニ奉ズルノ職務ヲ以テ。家政ヲ整理
スルヨリモ。重且ツ大ナルモノトスルトキハ。實ニ其婦ト
謀カリ。他日内謁。タメニ事ヲ敗ブルガ如キヲ豫メ防遏
セザルベカラス。其袴後ヲコトサラニ拗屈シテ。而シテ其
室ヲ警戒セシガ如キ。意ヲ用ウル。鎮密ナリト謂フベシ。左
レバ勝重初メ奉行トナルニハ。如斯鄭重ノ注意ヲ要シ。而
シテ其已レニ代リテ京都所司代タルモノヲ推薦スルニ
ハ。實子重宗ヲ以テス。敢テ其子ニ私スルノ嫌ヲ被ムルコ
ト畏懼スルノ念ナシ。公ニ奉ズルニ至誠ナル。亦以テ見ル
ベシ。重宗ノ職ニ在ル。果シテ勝重ノ鑑識ニタガハス。慎密
公廉ニシテ。大ニ其職ニ稱フ。世因テ稱歎シテ曰ク。勝重能
ク其子ヲ識リ。而シテ重宗ハ其父ヲ辱カシメサルモノナ

リト。然ルニ徳川氏ノ季世ニ及ビテハ。其職ヲ奉ズル者。徒
ラニ公正廉潔ヲ以テ外面ヲ飾リ。苞苴私謁。黃緣請託。百方
官ヲ求ルニ汲々タリキ。何ゾ其婦ト謀ルニ暇アラシヤ。而
シテ朋友親戚ノ中ニ於テ。器材アル者アリトモ。自カラ推
薦スルヲ憚カリ。他ニ託シテ推薦セシム。蓋シ其親朋ニ私
スルノ嫌ヲ避クルニ在リ。公ニ奉ズルノ至誠ナキモノト
謂フベシ。然レバ則チ勝重ノ如キハ。宜ク鎮密ナルベキ所
ニ鎮密ナルモノニシテ。徳川氏季世ノ風ハ。之ニ反スルモ
ノト謂フベキナリ。宜ナルカナ。治亂其迹ヲ同フセザリシ
コト。

第十五 板倉重宗茶礮ヲ設ケテ訟ヲ聽キタル事

重宗ハ。板倉勝重ノ長子ナリ。初メノ名重統。後チ今ノ名ニ

改ム、十三郎ト稱ス。慶長中、從五位下ニ叙シ、周防守ニ任ス。
其京都所司代ノ命ヲ拜シ、職ニ在ルヤ、治績父一減ゼズ。重
宗嘗テ人ニ問テ曰ク、吾ガ獄ヲ斷スル、世人何ト謂フヤト。
曰ク、公カ威嚴ナル、人其言ヲ盡シ難キニ困シムト。重宗之
ヲ聞テ曰ク、汝ガ言理アリ、吾ガ訟ヲ聽ク、其非ヲ飾サリ
情ヲ匿スト思フトキハ、面貌ノ憎ムベキヲ覺フ、故ヲ以テ
屢之ヲ窮詰スル、聲高ク色厲シ、其弊ヤ遂ニ言ニ訥ナルモ
ハ、ヲシテ畏怖トシメ、敢テ情ヲ盡サズルコトアラシ。是吾
ガ過チナリト。是ヨリ、法廷ニ出ル毎ニ、茶磴ヲ亮隔ハ中ニ
設ケ、西ニ向テ拜シ、而シテ後チ座ニ著キ、亮隔中ニ在テ茶
ヲ碾キ、訟者ハ面ヲ觀ス。人アリ恠ムテ其故ヲ問フ。重宗對
テ曰ク、獄ヲ斷ズル者ハ、宜ク一點ハ私心ヲ挾ムベカラズ。

吾毎、西ニ向テ拜スル所以ハ、コレヲ愛宕山神ニ誓フナ
リ。愛宕神ノ威靈顯赫ナル、苟モ私心アラバ、神マサニ我ヲ
罰殛セシ。凡ソ人ハ心ハ境ニ觸レテ移動シ、易ク心ハ湛然
トシテ澄靜ナルハ極メテ難シ。故ニ親カラ茶ヲ碾シ、以テ
心ヲシテ澄靜ナラシム。心靜カナルトキハ、則チ手モ亦徐
ナリ、手徐カナレバ、則チ茶密ナリ。茶ハ粗密ヲ視バ、以テ心
ハ靜躁如何ヲ驗知スルニ足ル。苟モ心ニシテ澄靜ナレバ、
則チ明生ズ。明ナレバ、則チ裁斷スル所平允ナリ。是非曲直
人豈ニ得テ覆蔽スベキモノナランヤ。且ツ人ノ顔貌ハ相
同シカラザルコト、千差萬別ナリ。美アリ、醜アリ。愛スベキ
アリ、惡ムベキアリ。面相ハ愛スベキヲ視レバ、則チ其言辭
聽ク可ク。面ハ惡ム可キヲ視レバ、則チ其語氣亦詐ルニ似

タリ。之ヲ以テ宰官タル者、動モスレバ、面相ハタ、ニ、彌、ヒ、
テ、レ、斷、識、其、允、當、ヲ、闕、ク、ニ、至、ル、豈、懼、レ、テ、且、ツ、慎、マ、ザ、ル、ベ、
ケ、ン、ヤ、吾、ガ、亮、隔、ヲ、閑、テ、訟、者、ノ、面、ヲ、觀、ザ、ル、所、以、ナ、リ、ト、又、
嘗、テ、幕、府、ノ、吏、ニ、シ、テ、サ、ニ、任、ニ、長、崎、ニ、赴、ム、カ、ン、ト、ス、ル、
アリ、京、都、ヲ、過、ギ、テ、重、宗、ニ、謁、ス、晤、言、時、ヲ、移、ン、テ、マ、サ、ニ、辭、
シ、テ、歸、ラ、ン、ト、ス、重、宗、一、古、錢、ヲ、袂、ヨ、リ、出、シ、テ、之、ヲ、與、ヘ、テ、
曰、ク、此、ハ、是、レ、前、日、長、崎、奉、行、タ、リ、シ、竹、中、某、ノ、贈、ル、所、ナ、リ、
竹、中、ハ、遂、ニ、賊、ヲ、以、テ、敗、ル、者、ナ、リ、故、ニ、吾、恆、ネ、ニ、コ、レ、
ヲ、座、右、ニ、置、キ、以、テ、自、ラ、儆、戒、ス、今、イ、サ、カ、子、ガ、行、ニ、贖、ス、
ル、ニ、此、古、錢、ヲ、以、テ、セ、シ、ト、蓋、シ、長、崎、ノ、地、タ、ル、蕃、漢、互、市、ノ、
場、ニ、シ、テ、珍、貨、奇、寶、ノ、輻、湊、ス、ル、所、ナ、レ、バ、往、々、貨、財、ノ、為、ノ、
失、敗、ヲ、取、ル、故、ヲ、以、テ、重、宗、錢、ヲ、惜、テ、之、ヲ、諷、ス、ル、ナ、リ、重、

宗、京、都、所、司、代、タ、ル、コ、ト、殆、ン、ト、四、十、年、政、公、明、ニ、シ、テ、訟、獄、
允、當、ナ、リ、盜、賊、起、ラ、ズ、姦、猾、迹、ヲ、削、ル、京、都、近、來、ニ、至、ル、マ、デ、
其、姓、名、ヲ、門、傍、ニ、署、シ、以、テ、避、盜、ノ、靈、符、ヲ、ナ、ス、ノ、俗、ヲ、存、セ、
リ、其、京、民、ノ、追、慕、ス、ル、所、亦、以、テ、觀、ル、ベ、シ、
物、茂、卿、ガ、將、軍、吉、宗、公、ニ、獻、ゼ、シ、書、中、ニ、謂、ヘ、ル、コ、ト、ア、リ、曰、
ク、昔、ン、板、倉、周、防、守、下、向、シ、タ、ル、一、キ、松、平、伊、豆、守、申、タ、ル、ハ、
上、ニ、モ、段、々、御、政、務、ニ、御、心、盡、サ、レ、候、上、方、ノ、コ、ト、ヲ、モ、委、細、
ニ、聞、シ、召、タ、ク、思、召、サ、レ、候、間、向、後、ハ、仲、間、ヘ、遣、サ、レ、候、書、狀、
ハ、今、少、シ、念、ヲ、入、レ、上、方、ノ、コ、ト、ヲ、モ、上、聞、ニ、入、ル、ヤ、ウ、ニ、致、
サ、ル、ベ、シ、ト、云、フ、ト、キ、周、防、守、客、ニ、百、二、十、里、隔、リ、タ、ル、先、ノ、
コ、ト、ユ、エ、上、ニ、何、ホ、ド、御、發、明、ニ、御、座、遊、バ、サ、レ、候、ト、モ、及、ビ、
越、ニ、ハ、御、存、知、之、レ、無、キ、コ、ト、ナ、リ、其、為、ニ、周、防、守、ヲ、置、ル、

コトナレバ。申上ルニ及バズ候ト答ヘタリ。サテハ周防守
ハ身ヲ踏込デ勤ムルモノナリトテ。御感悦淺カラサリケ
ルトナン。書狀ハイツモ。上ノ御機嫌ヲ伺ヒ。サテ堂上方替
ルコトナシトバカリニテ。恐惶謹言ト留メテ。何事モ申越
サズト兼ハルセメテ。今ハ世ニ大役ハヒトハ。周防守ガ半
分。器量モアレバ。世間ノ人ニ風儀移リテヨカルベシト
思ハル。又曰ク。周防守ハイカホドニ有ケン。ヨク思ハヤリ
テ勤メタルハ。治ノ筋ニ心付タルヤウニ兼リタルコトア
リ。京都ノ人只面々ノ職分ヲサヘスレバ。京都ハ治マルト
常ニ云テ。公家ハ歌ヲヨミ學文ヲスレバ。少々ノ強キコト
ヲモ免ルシ。鹽者ハ療治ヲ能シ。職人ハ其家職ヲ能スレバ。皆
少々ノ惡キ事ハ免シタリト承ル。或時京都ノ片田舎ハ周防守

行タルニ。古キ社ノ宮居モ零落シタルニ。神主古キ装束ヲ
著ケ。拜殿ニ書物ヲ見テ居タリ。周防守何ノ書ゾト問ヘバ。
神書ナリト答フ。其後一年バカリモ過ギテ。周防守マタ行
テ見タレバ。神主初ノ如シ。周防守大ニ感ジテ。此社ノ修覆
ハ。公儀ヘハ申シ難シ。自分ニ修覆ヲシテマイラスベシト
テ。修覆セラレタリ。是モ神主ノ家業ヲ太切ニ為スコトヲ
賞翫シテノコトニテ。京都ノ治ト云コトニ其身ノ全体ハ
マリ居タル故ナリ。今ハ右ノ社ヲ板倉ノ家ニテ修覆スル
ト云コト。是ハ世ノ習ハシノ例ト云フコトニ覺テ。後ノ神
主モ子孫モ。周防守ガ本意ヲ知ラズ。此社ヲ信仰シタルト
思フハ淺マシキコトナリ。總ジテ世間ニモ。周防守ハ公事
ヲ能ク捌タリトバカリ覺テ申傳ルハ。目モナク耳モナキ

世ナルカ大。

櫻所子曰。板倉勝重。同重宗。父子共ニ吏治ニ長ズルハ。固ヨリ喋々ヲ談タズ。當時京都人民ノ愛敬思慕スル所。後人ノ稱讃咨嗟シテ措カザル所ナリ。然ルヲ今マタ其吏治ハ板倉父子ヲ以テ最トスルノ意ヲ陳ベ。却テ贅言ニ屬スルノ毀リヲ來タサンヨリハ。寧ロ其心ヲ治ニ用ウルニ就テハ。如何ニシテ斯ク牧民ニ長セシモノナルヤヲ考索スベシ。重宗固ヨリ天質聰慧ニシテ。心ヲ治ニ用ウルモノタルモ。若シ之ヲシテ粗倅ノ氣アラシメバ其聰慧ハ翻テ民ヲ保安スルガ為メニ用ヲナサズ。或ハ舞文巧詆ト化シ。或ハ陰險奇譎ト變ジ。縱使始メ循良ノ名ヲ得ルモ。年ヲ経ルニ至リ。其間終ニ奇酷ノ老吏タルノ毀リヲ招カン。何トナレバ

徳川氏ノ中世以降。閣老タリ奉行タリ。代官タル輩ヲ觀ルニ。初メ其命ヲ拜シテ職ニ當ルヤ。銳意以テ前弊ヲ矯正シ。大ニ民望ヲ得。而シテ三五年若クハ七八年。年月ヲ経ルニ及ビ。漸ク怨嗟ノ聲民間ニ聞エ。或ハ專橫驕恣。太樹將軍ヲモ蔑視スルニ至ルモアリ。間部詮房。田沼意次ノ如キ是ナリ。左レバ幕府ノ吏一シテ。而シテ聞譽ヲ遠邇ニ馳スル者。初メ板倉父子ノ如クニシテ。後テ間部田沼ノ流亞タラサルモノ幾ンド希ナリ。重宗京都所司代タルコト四十年。終始一ノ如ク。未ダ嘗テ吏治ニ老タル者ハ。恰モ社鼠ノ蟠蟠ニ化スルガ如クナルノ跡アラザル所以ノ者ハ。何ニ因テ然ルカ。曰ク他無シ其意ヲ用ウルコト頗ル縝密ニシテ。毫毛粗豪驕縱ノ氣アラザルニ由レリ。此縝密ノ心ヲ以テ

訟ヲ聽ク。故ニ其訟者ノ面相ヲ視ル。自カラ愛憎好惡ノ生ズルヲ知ル。其非ヲ飾ガリ情ヲ匿スト意フトキハ。聲色共ニ厲シフシテ。訟フル者ヲシテ情ヲ盡スアタハガラシムルヲ察ス。是ニ於テ乎。亮隔ヲ開デ。茶礮ヲ設ケ。訟者ノ面ヲ觀ズ。且ツ手ヅカラ茶ヲ碾キ。茶ノ疎密ヲ以テ。精神ノ靜躁ヲ驗知ス。是訟獄平允ヲ致スノ原因ナリ。此續密ノ心ヲ以テ民ニ蒞ム。故ニ其古祠ヲ過ギ。巫祝ガ神典ヲ讀ムヲ視テ。其業務ニ懈ラサルヲ美トス。其再ビ此ニ過ギリ。復タ前ノ如クナルヲ視テハ。大ニ之ヲ賞ス。此ノ如キ瑣事ナリト雖ドモ。歳ヲ經テ敢テ遺失セズ。此續密ノ心ヲ以テ人ニ交ハル。故ニ長崎ニ赴任スル者ニ諷スルニ。一古錢ヲ袂ヨリ出シテ。臧ノタメニ敗ブル。モノアルヲ以テス。其自ラ任ズ

ルノ厚キ職務ノタメニ意ヲ用ウル。周到續密ナルヲ以テ。書ヲ當軸ニ贈ル。敢テ京洛ノ政務ニ及バズ。是疎慢ニ似テ翻テ續密ナルガ故ナリ。由是觀之。板倉父子ノ吏治ニ長ズル所以ハ。意ヲ用ウルノ續密ニシテ。マサニ命ヲ拜セントスルニアタリテ。先ヅ其婦ト謀リ。コトサラニ袴ヲ拗シテ。婦言ヲ容レザルヲ示シ。或ハ茶礮ヲ設ケテ訟ヲ聽クガ如キ。苟モ聰慧ヲ以テ自ラ驕リ。細瑣ノ事ヲ輕ンジテ。敢テ顧思セザルガ如キ事ナキニ由レリ。後世自ラ吏能ニ誇ルモノ。細故ナリトシテ此ヲ放在シ。瑣事ナリトシテ彼ヲ看過ス。殊ニ知ラズ。細故瑣事ト雖ドモ。之ヲ積累セバ則チ重大ノ事故トナリ。以テ民心ノ嚮背治績ノ舉否ニ關スルモノナルコトヲ。後ノ民牧タル者。宜ク鑑スベキナリ。然リ而シ

テ今ノ所謂縹密ハ、苛察煩細ノ謂ニアラザルハ、固ヨリ言
ヲ待タズ。看者幸ニ金鎗ヲ混ズルコト勿レ。

第十六 太田忠兵衛劍法ノ虚實ヲ論ジタル事

太田忠兵衛ハ、板倉氏ノ臣ナリ。伊賀守勝重ニ仕フ。板倉勝
重ノ京都所司代タル、タマタマ大内ニ畧樂ヲ張り、衆庶ヲ
シテ縱觀セシムルコトアリ。遠近來リ觀ル者、堵ノ如シ。時
ニ染工吉岡兼房トイフ者亦往キ觀ル。警吏其無狀ナルヲ
見、叱シテ之ヲ去ラシム。兼房大ニ怒リ、家ニ歸リ私カニ刀
ヲ衣中ニ藏クシ、而シテ再ビ往テ警吏ヲ斬ル。事不意ニ發
シ、衆ニナ驚愕騷擾シテ、互ニ相蹂躪ス。勝重ハ日華門ニ在
リ、之ヲ觀テ怒ルコト甚シ。直ニ眉尖刀ヲ拔テ起ツ。忠兵
衛之ヲ止メ曰ク、是主公ヲ煩ハスニ足ラズ。某請フ代テ往

カント。衆ヲ排シテ進ム。兼房ニ紫宸殿ノ階下ニ遇フ。相呼
デ闘ハントス。兼房タマタマ顛躓シテ倒ル。忠兵衛呼テ曰
ク、人ハ顛躓スルニ乘ジテ、為スハ、武士ノ耻トスル所ナリ。
疾ク起テ、輸贏ヲ決セヨト。兼房身ヲ翻シテ起ツ。忠兵衛刀
ヲ揮テ一撃シテ之ヲ殪ス。群衆喝采歡呼シ、勝重大ニ悦ブ。
官邸ニ歸リコレニ酒ヲ賜ヒ、徐ロニ問テ曰ク、寡人嘗テ聞
ク、兼房ハ賤工ナリト雖トモ、亦擊劍ニ長ズルモノナリト。
而シテ其倒ル、モノハ天ナリ。汝ヲ盍ゾコレニ乘ジテ、擊
タズ。乃チ其起ツヲ待チタルヤト。忠兵衛謹ムデ對ヘテ曰
ク、是ハ劍法ニ虚實ノ辨アルナリ。今主公ハタメニ之ヲ論
ゼン。夫ハ倒ル、ヤ、倒ルモノモ、虚ニシテ身ヲ捍グ所以ノモ
ハ實ナリ。若シ我レ其實ニ臨マバ、反テ彼レガタメニ斬ラ

ハハコトヲラン。其起ツヤ。起ツニ實ニシテ。敵ヲ防グ所以
ハ者。虚ナリ。我其虚ニ乘ズレバ。彼レニ先ムセザルモノ。蓋
シ鮮シ。是少技ナリト雖ドモ。以テ兵法ニ通ズベキナリト。
勝重大ニ感じ。忠兵衛ニ祿若干ヲ増シ與ヘタリ。

櫻所子曰。劍ハ一人ニ敵スルノミ。然リト雖ドモ其虚ヲ衝
キ實ヲ避クル。間髪ヲ容レザルモノアリ。萬人ノ敵ニ當タ
ルモノ。固ヨリ此虚實ノ辨ヲ詳カニセズンバアルベカラ
ズ。信長ノ義元ヲ桶狭ニ襲撃セル。謙信ノ三郎ガ坂ヲ下ル
ヲ待テ之ヲ伐チタルガ如キ。亦ミナ實ヲ避ケテ虚ヲ衝ク
ノ策ニ外ナラズ。忠兵衛亦兵ヲ知ル者ト謂フベキナリ。

第十七 德川吉宗公ノ勤儉績密ナリシ事

德川吉宗公ハ。紀列侯光貞ノ第三子ナリ。初メノ名ハ賴方。

母ハ巨勢氏。元祿中。綱吉公紀邸ヲ過ギ。其庶子賴職賴方ニ
邑ヲ與ヘテ列侯ト為ス。其封邑ミナ越前ニ在リ。秩並ニ三
萬石。既ニシテ紀公老ヲ告ゲ。世子綱教立ツ。綱教薨ジテ嗣
ナシ。弟賴職立ツ。賴職薨ズ。是ニ於テ賴方立テ名ヲ吉宗ト
改ム。家繼公疾大ニ漸ム。其子無キヲ以テ。宗室等相與ニ議
シ。紀公吉宗ヲ以テ嗣トナス。正徳六年。征夷大將軍ニ任ズ。
公嘗テ増上寺ノ祖廟ニ謁ス。警蹕ノ上俯伏スルコト良久。
シキヲ見テ曰ク。如此ナレバ。則チ何ゾ非常ヲ警ムルヲ得
ン。自今以後。輿既ニ至レバ。即チ替首シ。過グレバ。則チ首ヲ
擧グベキナリ。其俯伏スル瞬息ノ間。ニシテ可ナリ。若シ否
ラザレバ。則チ其職ニ稱ハザルナリト。因テ其長ヲ責ム。
西ノ丸夫人。嘗テ隅田川ニ如ク。伊奈半左衛門忠達ニ命ジ

テ道ヲ治メシム。忠達奔走百計シテ。花草ヲ募求シ。而シテ之ヲ堤上ニ種ユ。既ニシテ公之ヲ聞キ悦ビズシテ曰ク。婦女固ヨリ事ヲ解セズ。今仲冬ニシテ。千林搖落シ。百草枯萎スル時ナリ。其ヲシテ自然ノ風色ヲ視セシメテ可ナリ。以テ不時ノ花草ヲ募求シテ。一時目ヲ娛メシカ。夫人若シ此地ハ常ニ如此ト為ハ。則チ之ニ非ヲ教ウルナリト。

公嘗テ廣尾里ニ游ブ。途ニ赤羽ヲ過グ。忽チ新渠中鳧鷖ノ集リ泛ブヲ見。之ヲ捕テ樂ム。遂ニ將サニ中橋ヲ渡ラントス。陪從者モ亦之ヲ見テミナ將サニ遷ラントス。公左右ニ問フ衆何ヲカ為ルゾト。對曰ク。殿下廣尾ニ如ク。毎ニ赤羽橋ヨリス。而シテ今マサニ中橋ヲ度ラントス。故ニ衆モ亦マサニ遷ラントスルナリト。公曰ク。之ヲ忘ル。夫ノ人ヲ治

ハル者。小事ナリト雖ドモ。而カモ常ヲ變ズルハ不祥ナリ。且ツ既ニ道路ニ命ジテ之ニ違スハ。是信ヲ失フナリ。信ハ國ノ寶ナリ。若シ信ヲ失ハ。則チ何ヲ以テカ衆ヲ御センヤト。乃チ還テ赤羽橋ヨリス。

公府下ノ屢火災ニ罹ルヲ憂ヒ。或ハ防火使ヲ増シ。或ハ街卒ヲシテ城中ニ入リ邸第ノ火ヲ救ハシム。府下舊ト竹茅ヲ以テ葺クモノ多シ。因テ悉ク店肆ヲ改造シテ瓦屋トナサシメ。諸侯旗下ノ士等ニ命ジ。漸ヲ以テ其宅ヲ改造シテ瓦屋トナサシメ。或ハ金ヲ貸シテ其費ヲ給シ。又巡行失火ノ官ヲ置ク。後チ稍々祝融ノ患ヲ除ク。

綱吉公ノ時。諸士多ク色ヲ以テ進ム。故ニ士風軟弱ニシテ。以年ミナ粉ヲ傳ク。裝容遊冶子ノ如ク。勇武ヲ卑視ス。公立

テ風ヲ化シテ古ヘニ復セント欲ス。故ニ驟カニ朝鮮馬場ニ如キ。諸士ヲシテ武ヲ講ジ馬ヲ調セシメ、之ヲ觀ル毎ニ輒チ金幣ヲ賜フ。或ハ隅田川ニ如キ。先驅ノ歩士ノ游泳、又ビ卒伍ノ銃ヲ放ツヲ觀ル。是ニ於テヤ、數年ナラズシテ士風大ニ化シ、射騎ヲ善クスル者、千ヲ以テ數ヒ、上下ノ武藝大ニ進ム。

公常ニ儉素ヲ用ウ、而シテ義ノ儉スベカラサルモノアレバ、則チ斷然之ヲ行フ。元祿中、大板金ヲ改鑄シ、其銀銅ヲ和スルヲ以テ、舊制ニ比ブレバ、其質頗ル粗惡ナリ。公曰ク、大板金ハ國家最上ノ貨幣ナリ。質ノ惡キ者ヲ以テ行フベカラスト。享保十年、令ヲ發シ、改鑄スルニ純金ヲ以テス。是ニ於テ、大板金、慶長ノ舊ニ復ス。公嘗テ小民鑒ヲ知ラズ、若ク

ハ藥ヲ求ムルコト能ハズ、而シテ夭壽ヲ夭折スルヲ怜レシ、東鑑寶鑑、普救類方ノ屬ヲ印刻シテ世ニ行ヒ、或ハ救急ノ藥方ヲ書シテ、民間ニ頒與シ、又直醫ガ民間ノ病ヲ治スルモノヲ聞キ、其寓直ヲ免ジ、因テ以テ、汝ク仁愛ヲ民ニ施コス。

寛保三年癸亥ノ秋、令シテ諸有司ヲ戒ム。其一ニ曰ク、宗家タル者ハ、宜ク子弟及ビ宗族ヲ戒ムベシ。其二ニ曰ク、宴安ハ鵠毒ナリ、當サニ之ヲ慎ムベシ。其三ニ曰ク、賓客ノ奉豐饒ナルコトナカレ。其四ニ曰ク、諸尹長嚴ニ賄賂ヲ禁ジ、且ツ物ヲ玩ブベカラズ。物ヲ玩ベバ、則チ人其好ム所ニ乗ジテ諂諛ス。其五ニ曰ク、奢靡ヲ禁ズ。其六ニ曰ク、儉スルモ度ニ過グベカラズ。其七ニ曰ク、商賈小人ヲ近クベカラズ。

公嘗テ御用御側澁谷良信ニ謂テ曰ク。間口聞ク世子家重舞ヲ善クスト。禮ニ成童象ヲ舞フ。從來スルコトアリ。且ツ舞ハ能ク身體ヲ動搖シ。血脈流通シ。病ヲ生ゼズ。亦養生ノ術ナリ。然リト雖ドモ。屢舞ヒ節スルコトヲ知ラザレバ。則チ物ヲ玩ビ志ヲ喪フ。余ノ屢獵スルハ之ヲ樂ムニ非ルナリ。衆ヲ率テ師ヲ用ウルノ道。之ヲ舍テバ則チ以テ習フナシ。且ツ士風ヲ厲マシ武技ニ熟ス。將ニ是ニ於テヤ在ラントス。士人ノ懦弱ナル浸剛毅ニ向フ。ミナ職トシテ是ニ之レ由ル。然ラズンバ則チ徒ラニ兆民ヲ罷敝シ。已レノ欲ニ從フナリ。豈ニ人ヲ治ムルモノ。為ス所ナラムヤ。近日諸侯徃々之ニ效ヒ。天下悉ク武備ヲ知ル。今國家太平ナリト曰フト雖ドモ。而シテ尚ホ未ダ刑措テ用ヒサルニ至ラズ。

獄訟モ亦少シトセズ。動ヒスレバ大辟ノ罰アリ。余ヲシテ江南ノ泣アラシムル者。ミナ余ガ不徳ニ由ル。一日萬機アリ。何ヲ以テカ詠歌舞蹈以テ日ヲ曠フシテ怠偷スベケンヤ。余職ニ在ル今ニ二十年。數年ナラズシテ將サニ世子ヲシテ余ガ師ヲ統ベシメントス。世子既ニ立ツ。則チ宜ク良臣ヲ選ムテ之ニ任スベシ。民ヲ憂フルコト朽索ノ六馬ヲ馭スルガ如クナリ。慎マザレベケンヤ。良信以テ世子ニ告グ。

享保ノ末。天下頻リ二年アリ。都下穀極メテ賤シ。斗米直ヒ三錢四分餘。大倉ノ米。每斛六斗五升。直小板一金。小豆大ニ窮ス。令ヲ出シ府庫ヲ發キ。五百石以下ノ者ニ貸シ。且ツ諸侯ニ命ジ各自ニ積貯ヒシメ。以テ水旱凶荒ノ備トナス。既

ニシテ愈賤シ。十六年辛亥ノ秋。有司ニ命ジ。諸州ノ粟米ヲ
糴シ。以テ倉廩ニ實ス。元文元年ニ及ビ。尚ホ小板一金ヲ以
テ。米一斛五斗ニ買フ。因テ令ヲ下ダシテ米價ヲ定ム。商估
比周シテ米ヲ買ハズ。公怒テ。亟、民ニ令スレドモ。猶ホ從ハ
ズ。官年々米ヲ買フ數十萬石。後テ朽蠹シテ用ウベカラザ
ル。至ル。卒ニ粟數千石ヲ棄ツ。市人公ヲ謂ハ失穀翁ト曰
フ。是年金銀二幣ヲ改鑄シ。款文ヲ文ト曰フ。故ニコレヲ文
字金文字銀ト稱ス。六月始メテ新幣ヲ行フ。直ヒミナ舊ノ
如シ。享保ノ後。是歲始メテ改元ス。故ニ都下ノ民謳テ曰ク。
維、元ヲ改ム。幣モ亦タ悛マル。穀翁獨リ何ゾ變ゼザルハ。
櫻所子曰。德川氏初メテ國政ヲ執ルニ方リテハ。干戈漸ク
収マリ。斯民トモニ休息スルヲ以テ施政ノ要トス。故ニ

其政質率簡易ナリキ。質率簡易ノ敝ヤ。蠢ニシテ野ナリ。故
ニ其中兼ニ及ムデハ。之ヲ兼クルニ文ヲ以テス。文ノ敝ヤ。
漸ク奢侈ニ趨リ。巧詐ニ傾ク。綱吉公以來。文敝漸ク進ム。吉
宗公。紀侯ノ庶子ヨリ起リ。身險阻艱難ヲ歷嘗シ。親ク民ノ
情偽ヲ知リ。慨然トシテ善治ニ志アリ。故ニ之ヲ兼クルニ
儉素ヲ以テシ。士風ヲ振起シ。奢侈ヲ節抑シ。廢滯ヲ興シ。窮
乏ヲ匡シ。災患ヲ救ヒ。淫慝ヲ禁ジ。罪戾ヲ宥ム。器用ヲ節シ。
内外嬖寵ナク。諫ニ從フコト流ル。カ如ク。言路ヲ洞開シ。
教化大ニ行ハレ。士其能ヲ精フシ。吏其職ニ稱ヒ。民其業ニ
安ムシ。貨幣ヲ改鑄シ。米粟ヲ貯蓄シ。家給シ人足リ。貫朽ヲ
粟陳シ。中興ノ偉業。祖先ニ超駕シ。後裔ニ垂裕ス。德漢文ニ
倖シト謂フベシ。公何ヲ以テカ能ク如此ナル。其心ヲ治ニ

用ウルノ鎮密ナルヲ以テナリ。何ヲ以テカ之ヲ知ル。曰ク
前二列記スル所ノ如ク。西城夫人ノ隅田川ニ如ク。花草ヲ
堤上ニ種タルヲ聞キ。其自然ノ風色ヲ視セシメサリシヲ
責メ。又廣尾ニ遊ブニアタリ。マサニ中橋ヲ渡ラントスル
ヲ止メ。赤羽橋ヲ過ギ。人ヲ治ムルモノハ小事ト雖ドモ。信
ヲ失フベキモノニアラズ。信ハ國ノ寶ナリトイフ。其火災
ヲ豫防シ。武藝ヲ講セシメ。璽書ヲ刊行スル等。民ヲ利スル
事ニ於テ。周密懇到ナラザルハナシ。宜ナル哉。徳川氏ノ業。
將サニ漸ク衰ント欲シテ亦振フニ至レルコト。一國ヲ統
宰スル既ニ此ノ如シ。一身一家ヲ脩齊スル。亦勢同ジカラ
ズト雖ドモ。理ハ則チ一ナリ。若シ粗豪ヲ以テ身ヲ立テ家
ヲ興スベシトシ。浮躁ニシテ富貴利達ヲ取ラントスルモ。

渾テ是レ妄想ト謂フベキノミ。

第十八 並河簡亮其門人ト語りタル事

並河簡亮ハ。京都ノ人ナリ。初メ伊藤仁齋ニ從テ學ブ。天性
剛決ニシテオヲ負ブ。其學尚書論語孟子二本ヅキ。經世濟
民ヲ以テ志ト為ス。毎ニ所謂訟ヲ聽クコト吾猶ホ人ノ
トクナリ。必ズヤ訟無カラシメン乎。及ビ如シ我ヲ用ル者
アラバ。吾レ其レ東周ヲ為シカ。苟クモ我ヲ用ル者アラバ。
朞月ノミニシテ可ナリ。三年ニシテ成ルアラノ數語ヲ
稱シテ曰ク。此レ聖人才徳ノ本領ナリト。奮然トシテ已レ
ガ任ト為ス。嘗テ蝦夷地方ヲ以テ内屬ト為サントス。而シ
テ年僅カニ四十。其志ヲ果サズシテ歿ス。識者之ヲ惜ム。
東涯ガ曰ク。簡亮ハ誠ニオアリ。然レドモ以テ六尺ノ孤ヲ

託スベカラズト。他日簡亮之ヲ聞テ曰ク東涯ハ實ニ吾ヲ
知ル。吾之ヲ人ニ奪フモ未ダ自ラ知ルベカラザルナリ。人
ノタメニ奪ハルハニ至テハ決テ之レナシ。東涯ハ之ニ反
スト。一日門人相集テ謂テ曰ク先生若シ志ヲ得バ吾儕ヲ
シテ何事ヲカ管セシメント座ニ一人アリ曰ク余ノ不才
ナル。先生ノ素ヨリ知ル所ナリ。但倉廩ヲ守ラバ則チ一掬
ハ米ト雖ドモ取テ之ヲ私シセズト簡亮曰ク爾ガ如キ
者ヲシテ奈何ゾ倉廩ヲ守ラシムベケンヤ其人色ヲ作シ
テ曰ク先生余ヲ以テ庶ナラズトスルカ簡亮笑テ曰ク否
ラズ物ヲ竊ムノオアル者ハ人ノ為メニ竊マレズ爾ガ能
ク人ノタメニ竊マレザランヤト。

櫻所子曰簡亮當時ニ在テ經濟ヲ以テ自ラ任ジ蝦夷地方

ヲテ内屬ト為サントス識見アル者ト謂フベキナリ
レヲ彼ニ書卷堆裡ニ呻吟シ終身蠹魚ト伍スル者ニ比ス
レバ固ヨリ日ヲ同フシテ語ルベキモノニ非ズ故ニ其言
ヲ所自カラ活動スルモノアリ則チ東涯ガ言ヲ聞キ吾之
ヲ人ニ奪フモ自ラ知ルベカラザルナリ人ノ為メニ奪ハ
ルハニ至テハ決シテ之レナシ東涯ハ之ニ反ストイヒ其
門人ノ倉廩ヲ守ラバ一掬ノ米ヲモ私シセズト云フヲ笑
ヒ物ヲ竊ムノオアルモノハ人ノ為メニ竊マレズトイフ
モノ是ナリ元和鞆索以來儒者ト稱セラルモノ多ホシ
トイヘ氏其學概テ實用ニ適セズ往々腐儒ヲ僻ノ嗤リヲ
免マガレザリシ所以ノモノハ他無シ人ニ奪フノオナキ
ヲ以テ人ノ為メニ奪ハルハコトヲ知ラズ清蕪自ラ信ズ

ル厚シト雖下モ貧汚ナル者ノ其欲ヲ逞フスルヲ知ラズ、
是ヲ以テ自ラ活動ノ妙用ヲ其學問智識ニ兼備セザルカ
故ナリ。今ノ歐學ヲ脩ムルモノモ亦然リ。曰ク經濟曰ク法
律。曰ク何曰ク何。其學習スル所ニ拘束セラレ。毫モ活動ノ
妙用ナクンバ。則チ從來ノ漢學者流ト異ナルナク。消食ノ
書。解語ノ字典タルノ嗤リヲ免ヌガレザルベシ。是何ヲ
以テ然ルヤ。曰ク其學ヲ脩ムルニ方リ。徒ニ文章字句ニ泥
ミ。其心ヲ用ウル周到縝密ナラズ。所謂二五ノ十タルヲ知
テ。而シテ二五ノ七アルヲ知ラザルニ坐スルノミ。簡亮ノ
如キ其意ヲ用ウルコト縝密ニシテ。善ク新意ヲ法度ノ外
ニ拈出セルモノト謂フベキナリ。

第十九 木勝吉直諒ニシテ密行多カリシ事

木勝吉蓬萊ト號ス。尾張荊安賀村ノ農夫ノ子ナリ。歲十二
ニシテ江戸ニ來リ。物茂卿ニ謁ス。幾クモ無ク茂卿歿ス。乃
チ郷里ニ歸リ力學スルコト年アリ。後チ京都ニ赴キ。講説
シテ業ト為ス。名聲都下ニ噴々タリ。勝山侯酒井忠鄰二條
城ヲ護ス。曾テ其名ヲ聞キ。之ヲ聘ス。禮遇頗ル厚シ。遂ニ文
學ヲ以テ之ニ仕フ。延享中。侯駕ニ從テ江戸ニ來ル。初ノ蓬
萊ガ勝山ノ儒員トナルニ當リ。俸米僅カニ十五口ナリ。然
レドモ其苟合ヲ欲セザルヤ。敢テ其妻妾ノタメニ口ヲ斗
升ニ餉スルニアラス。侯ノ能ク其已レヲ知テ優遇シ。以テ
為スコトアルガ為メナリ。侯マサニ大ニ用ントシ。之ニ藩
政ヲ委任ス。半途ニシテ館ヲ捐ツ。其世子封ヲ襲フノ後チ
ニ及ビ。封内歲饑工用足ラズ。諸臣賜ヲ止ム。終ニ蓬萊ニ儉

セズ其隆禮以テ視ルベシ。其他敬待率不此類ナリキ。

蓬萊ガ経義ヲ講説スル。善ク近ク喻ヲ取テ教諭ス。言語明
爽。頗ル中江藤樹ノ人タルニ似タリ。故ニ至愚ノ人ト雖モ
モ其旨ヲ領了シ。師徳ヲ仰慕ス。常ニ謂ク白鷗水ニ在テ悠
然トシテ浮ブ。清閑自得シ。而カモ其足ハ躁擾ニシテ以ク
モ息ヲコトヲ得ズ。是ヲ以テ其性ヲ失ハズ。人ノ世ニ處ル
モ亦此ノ若キノミト。

蓬萊資性直諒ニシテ。類ニ密行多シ。齋居獨處スト雖下モ
皎然トシテ自ラ欺カズ。其書生タル時嘗テ酒樓ニ飲ム。娼
妓ノ絃歌ヲ善クスルモノ二人ヲ知ル。其後々二人主人ノ
為メニ逐ハル。依頼スル所ナシ。來テ蓬萊ガ家ニ寓セシコ
トヲ請入。蓬萊之ヲ憐ミ。二人ヲ家ニ置ク。之ヲ遇スルコト

賓客ハ若シ未ダ嘗テ娼狎ヒズ。自ラ謂フ。幽ダ。嚮キ。一樓ニ
在テハ妓タリ。今ハ則チ處婦タリ。舟賤ハ者ニ非スト。之ハ
安撫スルコト愈厚シ。其資裝ヲ整テ之ヲ嫁ス。人ニナコレ
ヲ賢トス。蓬萊少キ時家貧フシテ常二十日ノ食無シ。流氓
男女來テ門外ニ立テ食ヲ乞フモノアレバ。米櫃ヲ倒シテ
コレヲ與フ。蓬萊常二人ニ語テ曰ク。己ハ不善ニシテ人之
ヲ譽ム。以テ喜ト為スニ足ラバ。己ハ善ニシテ人之ヲ毀ル
以テ憂トナスニ足ラスト。明和二年十月。駒籠ノ邸舎ニ歿
ス。年五十一ナリ。

櫻所子曰。蓬萊農家ニ生長シ。遂ニ勝山候ノ敬待スル所ト
ナル。其學識為スアルニ足ルモノナルベシ。而シテ其直諒
ニシテ密行多キト。世ノ毀譽ヲ以テ喜戚ヲ為サバルトハ。

最モ其敬待ヲウケタル所以ノ本ナルベシト思ハル。何レバ世人ノ最モ難キ所ヲ行ヒタルヲ以テナリ。視ヨ今世ノ人士ノ為ス所ヲ視ヨ。曰ク交際ヲ廣フス。曰ク事業ヲ興起ス。曰ク歐米ノ學術ヲ研磨ス。而シテ其心ニ求ムル所ハ何ゾヤ。以テ名聲ヲ社會ニ得ント欲スルニ外ナラザルナリ。タマタマ其素行ノ脩マラザル等ノ事ヲ以テ。此ヲ諷シ此ヲ諫ムルモノアレバ。之ヲ視ルコト蛇蝎ノ如クシ。頑陋ニシテ共ニ齒スルニ足ラサル者トスルニアラザレバ。則チ妬忌以テ人ノ名譽ヲ害スルコトヲ好ムモノナリトス。安ゾ知ラン其言論河ヲ懸ケ。文章珠ヲ貫ヌクガ如クナルモ。言行相反スルノ舉動。自ラ掩フベカラザルモノアルコトヲ。之ヲ再言スレバ。已レ不善ニシテ人ノ之ヲ毀ルヲ喜ビ。已レ善ニシテ人ノ之ヲ譽メサルヲ憂ヒ。蓬萊ガ謂所ト相反スルニ由ル。是他ナ。稠人廣坐ニ在テハ。言文ニシテ行ヒ正シクモ注意周到ナル。齋居獨處ノ時ニ於テハ。醜ヲ漏ラシ陋ヲ露ハシ。其心ヲ用ウル縝密ナラザルヲ以テナリ。且ツ夫ノ台徳公ガ波奈女ニ於ケルガ如キ。富貴ノ人ニシテ。殊ニ具瞻ノ地位ニ立ツモノニ於テハ。自ラ重ムスル所アルベキ理ナレバ。深ク恠訝スベキニ非ズ。然カルモ人猶ホコレヲ賢トス。然ルニ蓬萊ハ一寒儒ノモ。二人ノ娼妓ヲ其家ニ置ク。之ヲ遇スルコト賓客ノ如クシ。敢テ娼押セザルニ至テハ。其自ラ重ムズル所ノ徳操。最モ常人ノ為シ難キ所ナリ。蓬萊此二個ノ難事ヲ躬行ス。マタ以テ後人身ヲ脩ムルノ模範トナスベキナリ。

第二十 二老人其家ヲ富マシタル事

大田錦城ノ梧窓漫筆ニ曰ク。下野ノ鹿沼ニ住スル一老人アリ。終身其門前ノ水流ニシガラミヲ為シテ流レ止マル朽木古木ヲ集メ之ヲ焚テ家人湯浴ノ用ニ供ス其家大福ヲ發シ其子ニ博學能文ニシテ君子長者ノ風アル人ヲ生ジタリ武蔵ノ本莊ニ住セル一老人終身其門前ノ馬糞ヲ掃ヒ取レリ此モ其家ハ大福ヲ發シ子孫ニハ學者ヲ生ジタリ。

櫻所子曰錦城斯二事ヲ記シテ而シテ自說ヲ録シテ曰ク。夫ハ大福ヲ發シテ子孫モ榮昌ナラントニハ勤儉ニシテ積密ナル氣象アルモノニ非レバ能ハザルコトナリ開國創業ノ人トテモ同シトナリ然ルヲ粗豪浮躁ナル氣象

ニテ徒手ニテ萬金ヲ得シ一家ヲ起サシナド願フハ博徒流ノ餘習ニテ天地ノ間ニ此理此事アルコトナシト知ルベシト善哉言ヤ思フニ昔在武門權ヲ專ニシ農工商估ヲ賤視シタル時ニ於テハ其士タル者ハ禮義ヲ尊トヒ廉耻ヲ重ムシ苟モ利ヲ言フヲ耻ルカ如キ風尚アリ然ルニ開港貿易富强ヲ海外諸邦ニ競ハザルベカラザルヲ知ルニ至リ火輪ノ舶電信ノ機通國ニ偏ネク而シテ才俊ノ士往往カヲ陶朱猗頓ノ業ニ致ス斯民ヲ利濟セントスルモノ相踵テ起ル而シテ爭利ノ風漸ク熾ナルニ隨テ廉耻ノ習漸ク薄キモノ如シ然ルニ其利ヲ講スルモノ輒子曰ク我豈ニ一身一家ノタメナランヤ亦是レ天下國家ヲ利スルガタメナリ一事ヲ創メ一業ヲ興ス則チ輸出入ノ權衡

ヲシテ其平ヲ得セシメ、以テ國家富强ノ根柢ヲ培ハント
スルモノナリト公言ス。其言ハ太ダ善且美ナリト雖ドモ、
其為ス所如何ヲ察スレバ、巨商大賈ト雖ドモ、往々其産ヲ
破リ才俊ノ士ト雖ドモ、間亦失敗ヲ取ル。物産未ダ甚ダ増
殖スルニ至ラズ、製造未ダ甚ダ殷盛ナル一至ラズ、復何ゾ
夫ノ書生輩ガ、經濟ノ術ヲ談ジ、理財ノ說ヲ演ベ、而シテ自
家ハ翻テ生計ニ困ムモノ多キヲ恠マンヤ。試ニ視ヨ、目今
社會ノ上流ニ位シ、陶猗ノ素封ヲ有スト稱セラル、紳商
ト雖トモ、或ハ投機者流ト同視セラル、コトヲ免ヌガン
ズシテ、充分ニ社會ノ信用ヲ得タル者ハ幾ンド希ナリ、而
シテ其等ノ紳商ハ、孰レモ昭世ノ氣運ニ乗ジ、衆庶ニ率先
スルノ任ニ當ル所ノ才俊ニシテ、官民ノ交際廣カフザル

ニアラザルナリ。從來世故ニ經歷スル所、鍊熟セザルニア
ラザルナリ、而シテ其為ス所ノ、或ハ蹉跎シ易クシテ、而シ
テ社會ノ信用モ亦太ダ減却スルモノ多キハ、果シテ何ノ
故ゾヤ、吾以為ク、是レ他無シ、今ノ紳商ト稱セラル、輩ハ、
其經歷ニ熟鍊シ、才智ニ富ミ、交際亦廣ク、資本乏シカラズ、
完備ナラザルハナキモノ、如クナリト雖ドモ、唯勤儉ニ
シテ縝密ナル氣象ニ乏シク、動モスレバ粗豪浮躁ノ意氣
ヲ逞フシ、細瑣ナル利害ニ意ヲ用ウルコトナク、伎手ニシ
テ萬金ヲ攫シ、空拳ニシテ大利ヲ博セントスルガ如キ、賭
博者流ト一般ナル行為ノ、往々世人ノ耳目ニ呈露スルコ
トアルヲ以テ、自カラ社會ノ信任ヲ取ルコト、極メテ薄弱
ナルヲ致スモノナルベシ。若シ夫ノ紳商輩ヲシテ、勤儉ニ

シテ縝密ナル氣象アリ。之ニ加フルニ勤勉ニシテ久キニ耐忍セシメバ。社會ノ信任ヲ得ザラント欲スト雖ドモ亦得ベカラサルナリ。

第二十一 瀧鶴臺ノ妻絲團ヲ袖ニ藏セル事

瀧鶴臺ハ萩藩ノ士ナリ。學識徳望並高シ。同藩士某氏ノ女名某トイフモノアリ。面貌醜黒眉目夜叉ノ如シ。笄スルニ及ンデ人之ヲ娶ルモノナシ。其父兄之ヲ憫ミ曰ク。若シ之ヲ娶ルモノアラバ。賤人ト雖ドモ之ニ嫁スルコトヲ許サント。而シテ某ハ翻テ耦ヲ選ビ。常ニ人ニ語テ曰ク。鶴臺先生ノ如クナル人ヲ得テ。所夫トスレバ則チ足ルト。人ミナ之ヲ哂フ。鶴臺之ヲ聞テ曰ク。此レ我が知己ナリ。必ズ善ク内ニ治メント。遂ニ之ヲ娶ル。某既ニ瀧氏ニ歸ギ。其事ヲ執

ル。曉順聽從ナラサルハナシ。而シテ鶴臺客ト語ル。某常ニ屏後ニ在テ之ヲ聽ク。談或ハ忌諱ニ觸ル。モノアレバ。則チ之ヲ諫止ス。居ハコト數年。一日周旋ノ間忽チ赤絲團アリ。其袖ヨリ出デ。地ニ墜チタリ。鶴臺怖ムデ。之ヲ問フ。某赧然トシテ曰ク。妾ガ愚ナル。平日事ヲ行フ。悔ユベキモノ多シ。意其過チヲ収クセント欲ス。因テ嘗テ赤白二個ノ絲團ヲ製シ。平常之ヲ雙袖中ニ藏ス。若シ惡念アレバ則チ赤絲ヲ結ビ。若シ善念アレバ則チ白絲ヲ纏フ。一二年間。赤團ハ益大ニシテ白團ハ依然タリ。是ニ於テ惕然トシテ自ラ反省シ。更ニ慎戒ノ工夫ヲ加ス。今赤白二團ヲ較ブルニ。其大サ相埒シ。此レ亦良人薰陶ノ致ス所ナリ。但末ダ白團ノ赤團ヨリ大ナルヲ見サルノミト。更ニ一白團ヲ袖中ヨリ

出シテ以テ之ヲ示ス。

櫻所子曰。古來貞淑ヲ以テ稱セラル、者。其人ニ乏シカラズ。然シテ未ダ此ノ如ク其克己精到鎮密ナルモノアルヲ聞カズ。謂ッベシ。容貌ヲ醜惡ニシテ。心識ヲ美麗ニスルモノナリト。世ノ外面ヲ菩薩ニシテ。内心ヲ夜叉ニスルモノト。固ヨリ日ヲ同フシテ語ルベキニ非ズ。

第二十二 頼彌太郎文士疎懶ノ習氣ナカリシ事

頼彌太郎春水ト號ス。藝列竹原ノ農家ニ生マル。幼ニシテ好ムデ筆硯ヲ弄ス。寒郷絶テ師友ナシ。其家蓄蔵スル所ノ書僅々數冊ノミ。乃チ村塾ノ字ヲ識ル者ニ就テ句讀ヲ受ク。又字ヲ習ハント欲ス。偶鳥石山人ノ千字文ヲ得テ之ヲ鈎摹シ。持歸テ臨學ス。年十九ニシテ。疾ニ罹リ。盤ヲ上國ニ

求ハ。堺ニ至リ。趙陶齋トイフ者ニ逢フ。陶齋ハ書ヲ善クスルヲ以テ名アルモノナリ。一タビ春水ヲ見テ之ヲ奇トス。春水師友ヲ求メ。伏水ニ寓シ。マタ新天滿港ニ移居ス。春水始メ詩名ヲ得。又筆札ヲ以テ名四方ニ噪ハク。既ニシテ洛陽ノ書ヲ讀ミ。尾藤二洲。古賀精里。中井竹山兄弟。西山拙齋。菅茶山等ト毎ニ相切劘ス。其名聲漸ク起ルニ及ビ。本藩安藝侯命ヲ傳ヒ。擢テ。儒員トス。春水タママ藩侯ノ命ヲ奉シ。江戸ノ藩邸ニ來リ。世子ニ伴讀ス。從來儒士ノ進講伴讀ノ如キ。故事ニ充ルニ過ギサルノミ。然ルニ春水。草野ヨリ擢テラレ。孤立シテ援クルモノナキモ。輔導ヲ以テ已レガ任トシ。誓テ其學ヲ所ニ負ムカズ。以為ク世子幼齡ニシテ。學ニ就ク自カラ厭怠ヲ生ゼン。然レバ則チ必ズ發棄ス

ルニ至ラント、首々小學題辭ヲ進講スルヤ、汎ク和漢ノ事
跡ヲ搜キ、次ギニ孝經論語ヲ講ズルモ亦然カリ。必スシモ
文字章句ニ拘泥セズ、意義ノ暢達シテ解シ易キヲ旨トス。
世子亦之ヲ聽クヲ喜ブ、或ハ其遊戲玩好ニ因リ、物ニ觸レ
事ニ視ラヒ、以テ民ノ疾苦ヲ知ラシム。春水ガ世子ノ徳ヲ
養フ講誦ニ止マラズ、春水此ノ如クスルモノ凡ツ十一年、
後々世子封ヲ襲フニ及ビ、仁慈ニシテ果斷、内外其賢ヲ稱
スルモノハ、蓋シ春水ガ輔導ノ力ニ由リシトセズ、春水素ヨリ
方正嚴毅ヲ以テ憚カラル。一盤ノ滑稽ヲ以テ進ムモノア
リ。常ニ諸士ニ狎戯ス。侯曰ク頼彌太郎ニ逢フモ亦能ク此
ハ如クスルカト、盤黙シテ退ク。春水ノ人トナリ軀幹偉ナ
ラズ、而シテ之ヲ望ムニ威アリ、短面廣額ニシテ、眼光炯々

タリ、稟性方正剛峻ナル、妻子ト雖ドモ、未ダ嘗テ其情容ア
ルヲ見ザリシトイフ。故ニ衣久シク服スト雖ドモ、毀損亂
レズ、食スルニ臨ミテハ、盤碟匙箸、措置常アリ。其此ノ如ク
ハハハ以テ事ニ處スル勤敏ニシテ、毫モ文士疎慵ノ習ナ
シ。其家ヲ治ムルヤ、器什ヲ區處シ、帳簿ヲ精備シ、故紙敗簡
ト雖ドモ、整頓題署シ、儉素ヲ以テ自ラ律シ、清廉ヲ以テ自
ラ懷ム。一介苟モ取與セズ。自ラ奉スル所、或ハ人ノ堪フ能
ハザルモハアリ、而シテ窮困ヲ撫恤スルニ至テハ、未ダ嘗
テ吝惜セズ。其歿スルニ先ダツ數年、一書ヲ緘糊シテ、門生
ニ付シテ曰ク、我が歿スルニ及シテ之ヲ披ケト。披ケバ則
チ悉ク後事ヲ處分シテ、曲盡セガルハナシ。曰ク、雙刀一槍
是家ノ舊物ナリ。蔵書ハ處士タリシヨリ、辨置スル所。我が

膏血タリ。子孫善ク之ヲ愛護セヨ。他亦何ヲカ怯マンヤ。廉
潔ハ二字ハ。是我ガ家ノ精神ナリ。我ガ歿スルノ後。唯吾
カ戚族。或ハ汚名ヲ得テ。以テ祖德ヲ累ハサシコトヲ慮カ
ル。他ハ復タ何ヲカ憂ヘンヤト。歿スルニ臨ミ。又人ヲ情ッ
テ存祿セシム。曰ク某物ヲ借ル當サニ返スベシ。某物ヲ買
フマサニ直ヒテ償フベシト。其清介ニシテ。縝密ナル此ニ
類ス。又春水若フシテ遠ク遊ビ。攝生疾ヒテ慎ミ。聊カモ其
父ヲシテ憂ヒガラシメンコトヲ誓フ。時ニ歸省スル未ダ
嘗テ期ヲ愆マラズ。マタ母ノ歿セシテ諸子ノ成立ヲ見ル
ニ及バザルヲ痛ミ。毎ニ言詠ニ見ハル。外艱。丁タルニ及
ビ。葬祭禮ニ遵ヒ。年月久遠ナリト雖ドモ。忌辰ニ遇フ毎ニ
悼容アリ。遺體ヲ保護シテ。跬歩ノ間モ之ヲ忘レズ。幼時得

ル所。二親戒節ノ書。諸レヲ懷袖ニ藏シテ身ヲ終フ。終リニ
臨ミ其胎髮脱齒ヲ并ハセ。棺ニ納レシム。言フ能ハザルニ
至リ。又片紙ニ書シテ遺囑シテ曰ク。座右第幾匣。臍帶アリ。
亦自ラ隨ント欲スト。其全ク歸スルノ志念死シテ後チ已
ム者此ノ如シ。春水邪ヲ憎ミ姦ヲ惡ム。往々其非ヲ面斥ス
ルニ至ル。穢行惡德ノ人ノ如キハ。其姓名ヲ聞クヲ欲セズ。
然レドモ人ニ對シテ城府ヲ設ケズ。酬答洒落。時ニ詼諧ヲ
錯ユ。其病大ニ漸ムニ至ルマデ。疾ニ侍スルモノ。未ダ嘗テ
叱責ヲ被ムラズ。平素屬吏僕從。服從シテ護レズ。其歿スル
ニ及ビ衰服セザルハナシト云フ。

櫻所子曰。春水ハ子成ノ父ニシテ。當時文壇ニ旌旆ヲ樹ル
モノナリ。而シテ當時儒士ノ風。概ネ疎傲ニシテ。口ニ常ニ

經世濟民ヲ談ジ。修身齊家ヲ説クト雖ドモ。素行修マラズ。詩酒ニ耽ケリ。風月ヲ嘲罵シ。毫モ縝密ノ行ヒナシ。故ニ其子弟タルモノ亦之ニ摸倣シ。道德仁義ヲ以テ經書ノ事トシ。轟飲放吟ヲ以テ。儒生ノ本色トシ。讀書ハ徒ニ倣效ノ具トナリ。詩文ハ帝ニ諛言ヲ粧飾スルノ器ニ非レバ。則チ世ヲ弄ソビ時ヲ毀ルモノ、之。儒風ノ衰敗亦極ルト謂フベシ。此ヲ以テ世人が其子弟ヲシテ學ニ就カシムルハ。翻テ以身喪家ノ基トナルモノ、如ク看倣シタルモノ。亦タ所以アルナリ。春水其時態ニ眩セズ。屹然トシテ持立スル所アリ。其嘗テ學ニ揭示シケル言ニ曰ク。子弟ノ習ヒ。帝ニ一家ノ禍福ニ係ルノミナラズ。乃チ理教ノ醇否ニ關ハル。書ヲ授ケ業ヲ課ス。マヤニ其初メヲ謹ムベシ。而シテ又宜ク

其資稟ヲ揣カリ。樂習倦マズ。外馳ニ暇マナカラシムベシ。或ハ苛責嚴督。蒙士ヲシテ學舎ヲ視ルコト。圖圖ノゴトク。師員ヲ視ルコト。蛇蝎ノ如クナラシム。或ハ一モ激動ナク。曲從日ヲ曠フシ。媚ヲ父兄ニ取リ。無數ノ才質ヲ賊フハ。ナ教官ニ在リ。諸マサニ此意ヲ以テ相戒ム。以テ風勸養勵ノ盛意ニ副フベシト。亦以テ春水ガ子弟ヲ教育スルノ大要領ヲ見ルニ足レリ。又春水ノ江戸ニ在ル。白河侯始メテ封ヲ發ギ。召シテ道ヲ問フ。其封ニ入ルニ及ビ。春水之ヲ送ル。曰ク。政ヲ為スハ寬猛相濟ニ在リ。跡異ニシテ趨一ナリ。或ハ之ニ參フルニ術ヲ以テシテ。互ヒニ之ヲ用フルハ正ニ非ルナリ。政ノ純駁ハ學ノ正邪ニ由ル。方今學術日ニ卑薄ニ就ク。其人小ナレバ害小ナリ。其人大ナレバ害大ナリ。

為スアルノ資ヲ以テ。為スアルノ位ニ在リ。而シテ其學純正ナラズ。上ニ殘シ下モ慢スレバ。其レ道フニ勝フベカラズ。侯敦ク吾學ヲ尚ブ。志ス所ノ者正大ナレバ。將サニ發セントスルモノ高遠ナル。他日民ニ施シ民ヲ糾ス。時ニ寛時ニ猛。風俗ヲ振ヒ。人心ニ感ズル。施トシテ宜シカラサルハナシ云々。由是觀之。春水ノ學ブ所亦以テ窺知スベキナリ。其子弟ヲ訓誨スル。嚴ニ失セズ。緩ニ流レズ。其民ヲ馭スルニ。寛猛相濟スヲ以テス。此ヲ以テ其他ヲ推究セハ。則チ財ヲ理ムル。節儉質素ヲ旨トシテ。陰蓄ニ陷ラズ。其妻孥ヲ待テ。煩細ヲ事トスルニ及バズ。至竟寛猛相濟スノ旨趣ヲ以テ處世ノ要訣トスルニ足ルベシ。然ルニ德川氏ノ李世太

平遊惰ノ風。都鄙ニ遍布シ。多ホク寛緩ニ失スルモノ。こタマタマ此弊ヲ矯正セント欲スル者ハ嚴急ニ失シ。翻テ其志ヲ達スルヲ得ザリシカ如シ。夫ノ白河侯定信國ノ大鉤ヲ秉リ。有司ノ貪暴ヲ貶黜シ。而シテ廉直ヲ擧ゲ吏風大ニ化シ。贈遺受クル所ナク。請寄聽ク所ナシ。諸侯ノ民ヲ惠グニ節儉ヲ用ウルヲ賞シ。而シテ奢麗ヲ事トシ。般樂怠放スルヲ罰シ。諸士ヲ戒諭シ。武ヲ講シ文ヲ學ビ。教化大ニ行ハレ。德川氏ノ運既ニ衰テ復タ振フ。當時望ミヲ侯ニ屬セザルハナシ。是即チ侯ガ政ヲ施ス。所謂寛猛相濟ノ妙アルヲ以テナリ。而シテ其施治ノ妙ハ。侯ガ天性英敏ナルニ由ルト雖トモ。抑モ亦侯ガ嘗テ春水ニ聞ケ所。其政畧ニ裨ケアルモノタリシハ疑フベクモアラズ。而シテ春水ガ此ニ著

意スル所以ノモノ。蓋シ疎傲ノ文士ニシテ能ク思及スベ
 キモノニ非ズ。方正ニシテ縝密ナルヲ以テ其造詣スル所
 亦尋常腐儒ノ得テ知ルベカラザル所ニ達スルアルヲ以
 テナリ。豈啻ニ曩時ノ文人學士ノミナランヤ。今ノ歐學ヲ
 修ムルモノト雖モ亦然リ。若シ其意ヲ用フル縝密ナラス
 シテ夫ノ漢學者流ガ文士疎慵ノ習ヲ遺傳スルアラバ其
 弊風マタ曩時ノ儒者書生ト一般ニシテ世人ヲシテ學問
 ハ身ヲ立テ家ヲ興スノ妨礙ナリト認メラル、ニ至ラン
 思ハザルベケンヤ。

日本立志編卷五終

文部省檢査濟小學教科書及新刻目錄

千河岸實一著	一日本立志編	全三冊	田中義典編 安田敬齋編輯	一記事論說文例	全二冊
全	一同	全三冊	全	一同	上等
全	一同	三編 全三冊	全	一同	附錄
箱垣千嶺開土方幸勝正	一學初等作文書	全二冊	片山信成校	一世範校本	全三冊
全	一學中等作文書	全二冊	上田文齊著	一人體問答	全一冊
全	一學高等作文書	全三冊	同	一同	二編
宮崎柳陰編輯	一物理小學字引	全一冊	同	一同	增補
井口忠二釋	一頭十八史略註釋	全七冊	澤井龍平譯	一修身小學	全二冊

發兌書鋪

大坂南久寶寺町
四丁目八番地

前川善兵衛

